

平成29年1月30日（月）
平成28年度 第7回
大阪府河川整備審議会

資料3-2
①

淀川水系神崎川ブロックにおける 当面の治水目標及び治水手法について

（神崎川、安威川、糸田川、茨木川、佐保川、勝尾寺川除く）

目次

1. 当面の治水目標の設定	3
天竺川・兎川	3
高川	17
山田川・正雀川・正雀川分水路	27
大正川	37
箕川	44
旧猪名川	50
境川・三条川・新大正川	53
川合裏川	57
郷之久保川	60
裏川	64
土室川分水路	68
下音羽川	71

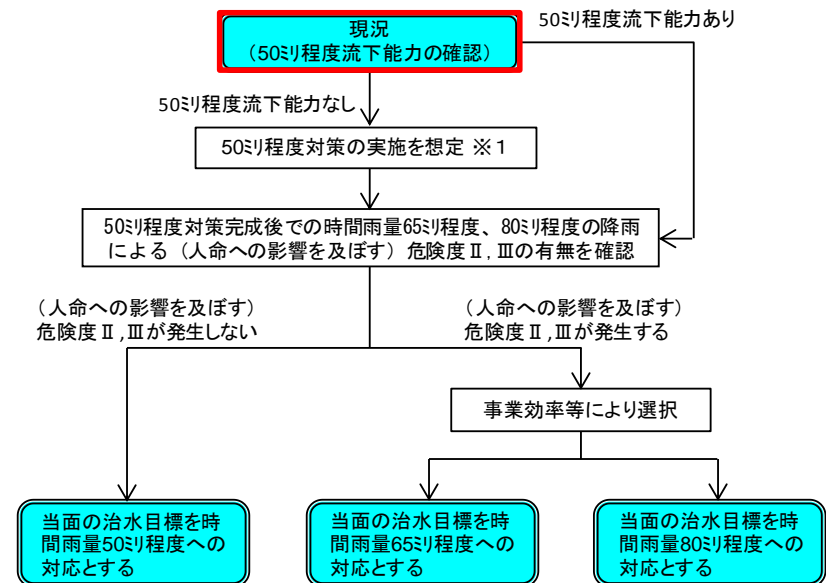
治水専門部会で審議済

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

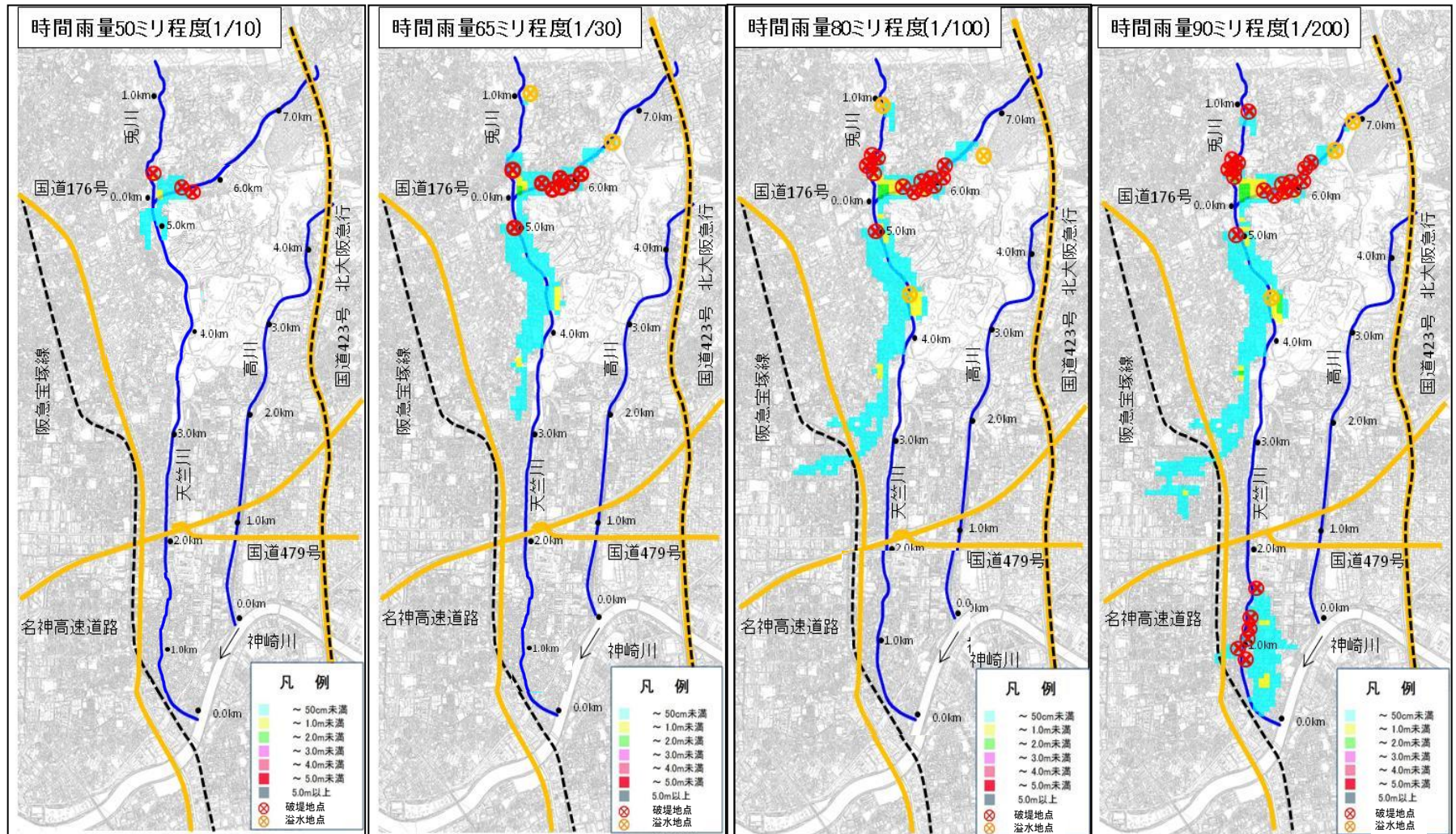
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- ため池の貯留効果を考慮しない
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（天竺川、兎川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：現況河道における氾濫解析】

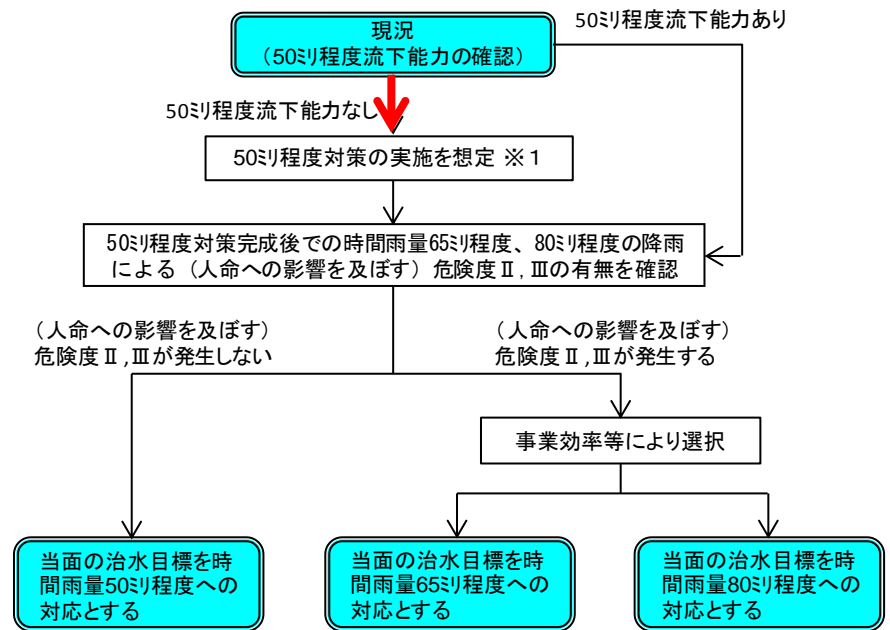
■ 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨に対して、危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生する



時間雨量50ミリ程度対策の実施を想定

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50mm程度 (1/10)	42.75ha 5180人 6,219百万円	0.50ha 55人 164百万円	被害なし
65mm程度 (1/30)	110.00ha 13,494人 17,258百万円	3.75ha 452人 1,884百万円	被害なし
80mm程度 (1/100)	230.25ha 25,674人 34,669百万円	13.50ha 1,645人 7,752百万円	被害なし
90mm程度 (1/200)	391.50ha 36,466人 49,896百万円	22.25ha 2,709人 13,680百万円	被害なし

(発生頻度) 大 ↑ ↓ 小
 (被害の程度) 小 ← → 大
 床下浸水 床上浸水 (0.5m以上)
 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)



1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：50ミリ程度対策後における氾濫解析】

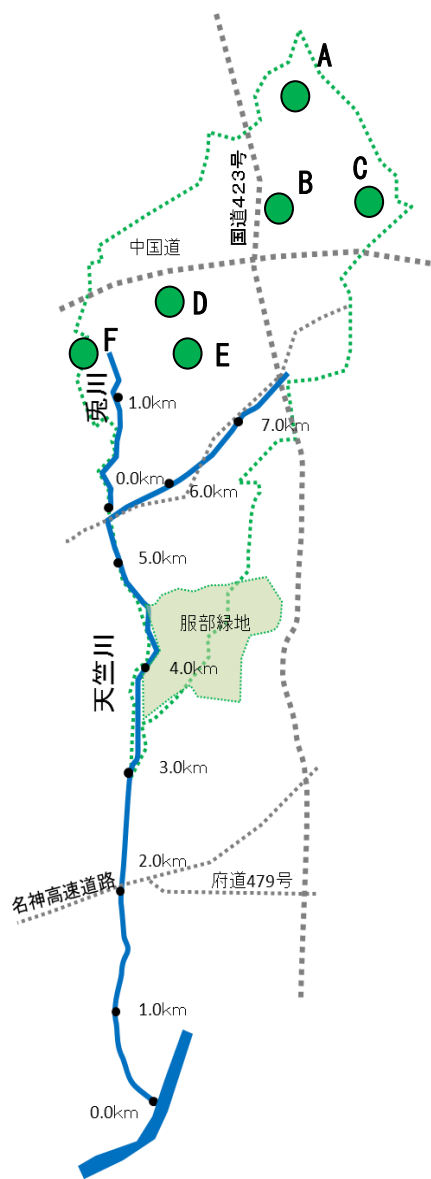
■治水対策の検討

天竺川、兎川における治水手法の検討にあたっては、以下に示す実現可能な2案を抽出し、経済性、施工性等による比較検討の結果、ため池の治水活用による対策を仮設定。

対策計画案		①ため池の治水活用案	②河床掘削案
計画案の概要		既存施設であるため池を活用し、雨水の流出を抑制する。	河床を掘削することで河積を確保する。
施工性・実現性		ため池利用のための関係機関との協議が必要になる。 ため池を、適切に維持管理する必要が生じる。	家屋が密集しており、工事による影響が大きい。
概算事業費	50ミリ程度対応	3.8億円	4.3億円
総合評価		実現性が高く、最も経済的である。	周辺家屋への影響が大きく施工性に問題がある。また、事業費が高い。
		○	×

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：50ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ 流出抑制効果が期待できるため池



天竺川の代表的なため池

ため池名	ため池の面積 (m ²)
A池	22,000
B池	6,000
C池	12,000
D池	9,000
E池	25,000
F池	16,000

○池面積5,000m²以上

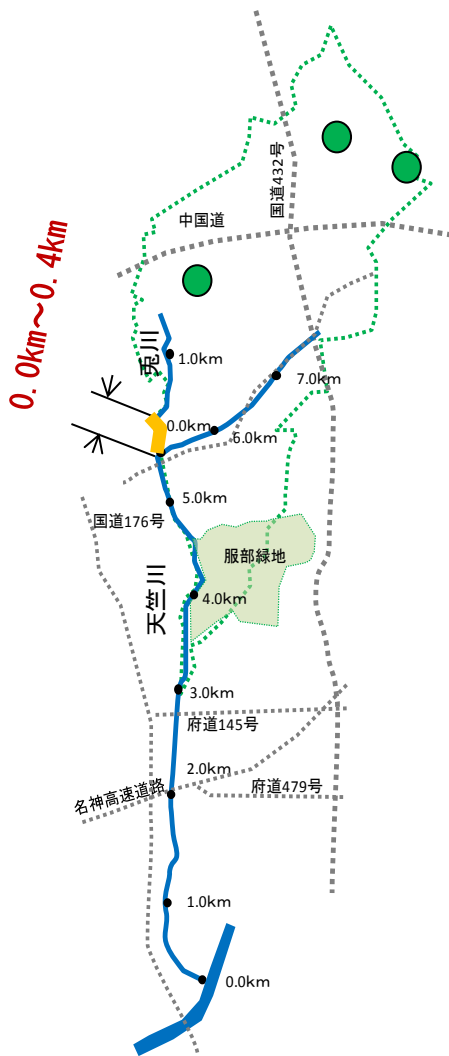
○天竺川・兎川の流下能力が不足する区間の上流にあるため池

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：50ミリ程度対策後における氾濫解析】

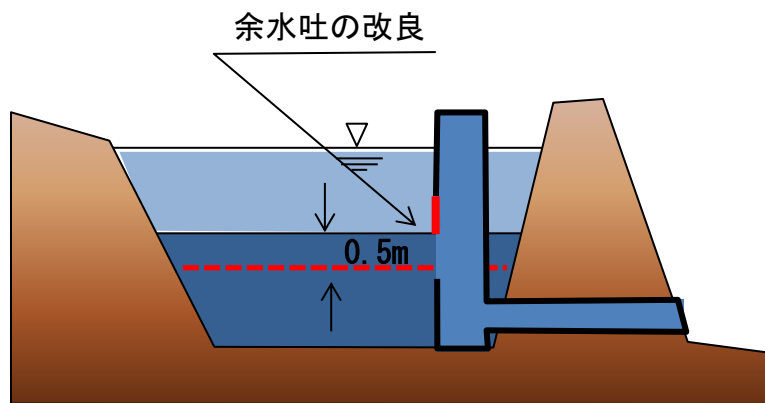
■時間雨量50ミリ程度対策の想定

天竺川は、ため池の治水活用を想定する。

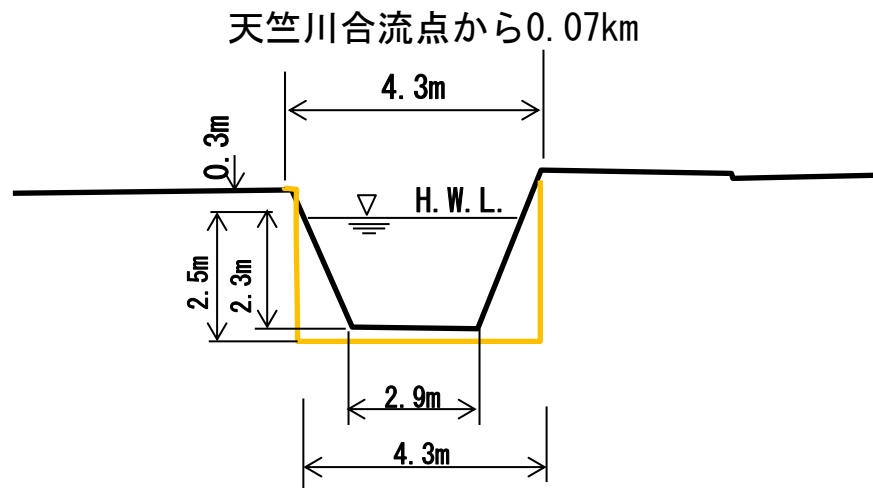
兎川は、流下能力が不足する区間について、河道改修を想定する。



改修区間位置図



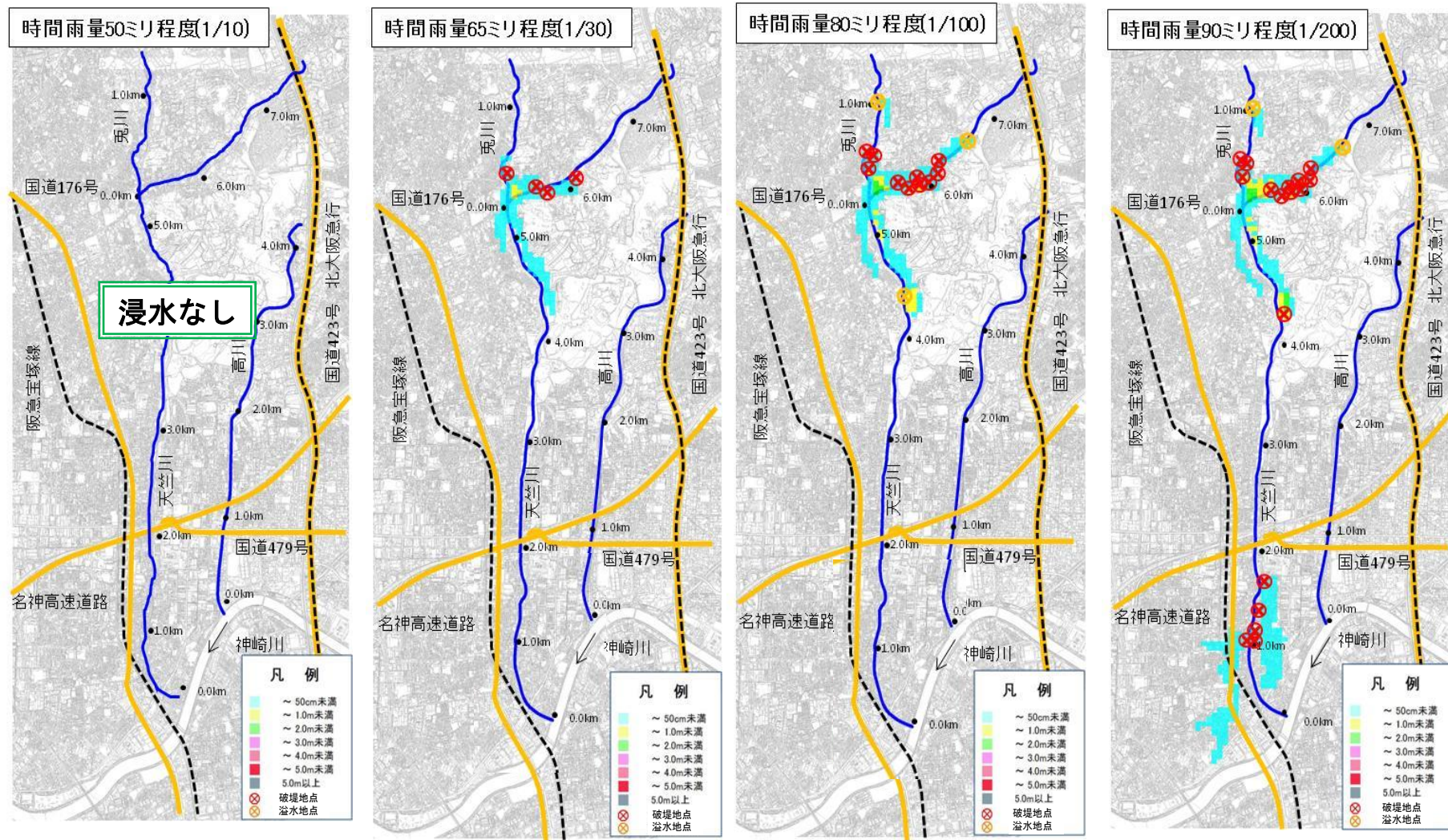
ため池の有効利用イメージ図



兎川 改修断面図

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：50ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量50ミリ程度対策後での氾濫解析結果（天竺川・兎川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

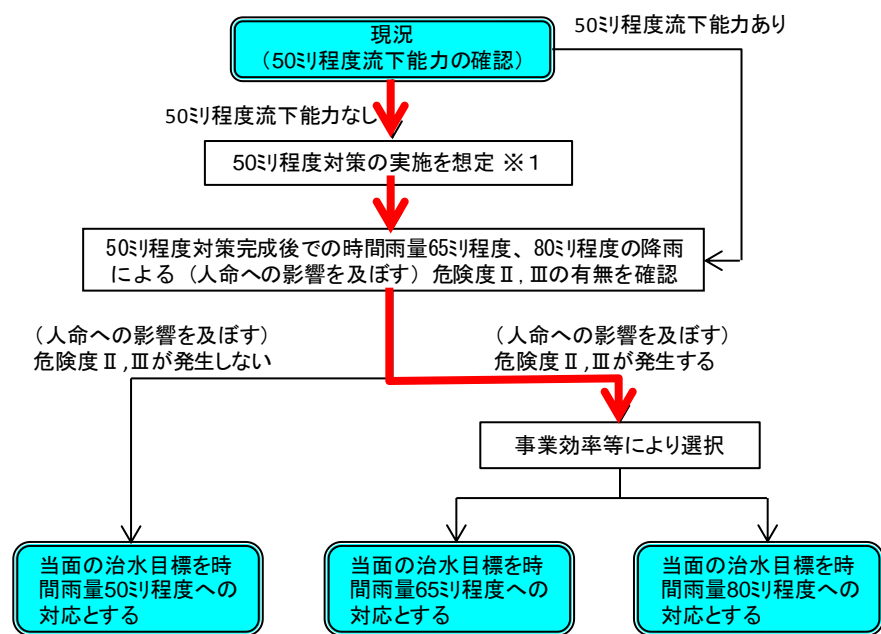
1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：50ミリ程度対策後における氾濫解析】

■50ミリ程度対策後において、時間雨量65ミリ程度の降雨に対して、危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生する



当面の治水目標は事業効率などにより設定する

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
(発生頻度)	大 ↑			
	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	34.75ha 4,833人 5,931百万円	0.75ha 98人 330百万円	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	137.25ha 17,702人 23,587百万円	7.00ha 963人 3,931百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	193.50ha 24,198人 33,062百万円	14.00ha 1,935人 9,423百万円	被害なし
小 ↓				
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
		(被害の程度) ← 小 → 大		



1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■治水対策の検討

天竺川、兎川における治水手法の検討にあたっては、以下に示す実現可能な3案を抽出し、経済性、施工性等による比較検討の結果、河道改修による対策を仮設定。

対策計画案		①河道改修案	②放水路案	③調節池案
計画案の概要		50ミリ程度対応後の河床を掘削することで河積を確保する。	流下能力が不足する区間を国道176号の地下に放水路を設置し流下能力の不足分をバイパスさせる。	公園、学校の地下に流下能力の不足分を一時貯留させる。
施工性・実現性		改修済区間で工事实績があり、特に問題はない。	地下利用のための関係機関との協議が必要になる。	地下空間の利用等について、関係機関との協議が必要となる。
概算事業費	65ミリ程度対応	7億円	52億円	94億円(V=47000m ³)
	80ミリ程度対応	11億円	80億円	166億円(V=83000m ³)
総合評価		実現性が高く、最も経済的である。	施工性、実現性に問題があり、また、事業費が高い。	施工性、実現性に問題があり、また、事業費が高い。
		○	×	×

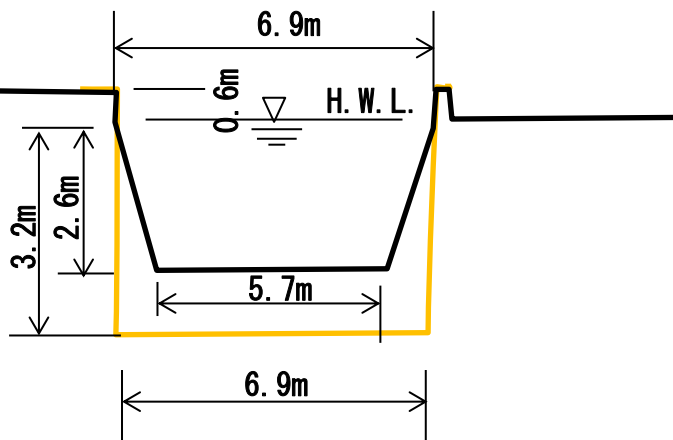
※概算事業費については、50ミリ程度対策後からのもの

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量65ミリ程度対策の想定

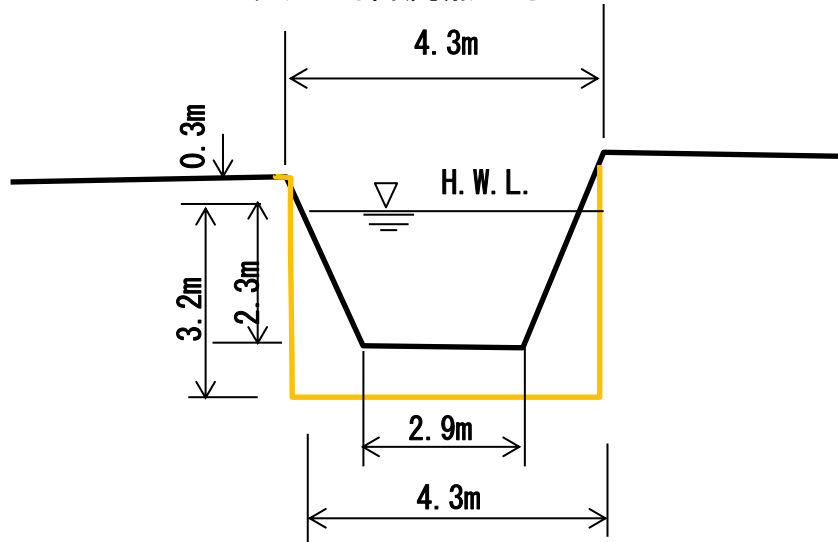
流下能力が不足する区間について、河川改修による時間雨量65ミリ程度対策を実施

神崎川合流点から5.7km

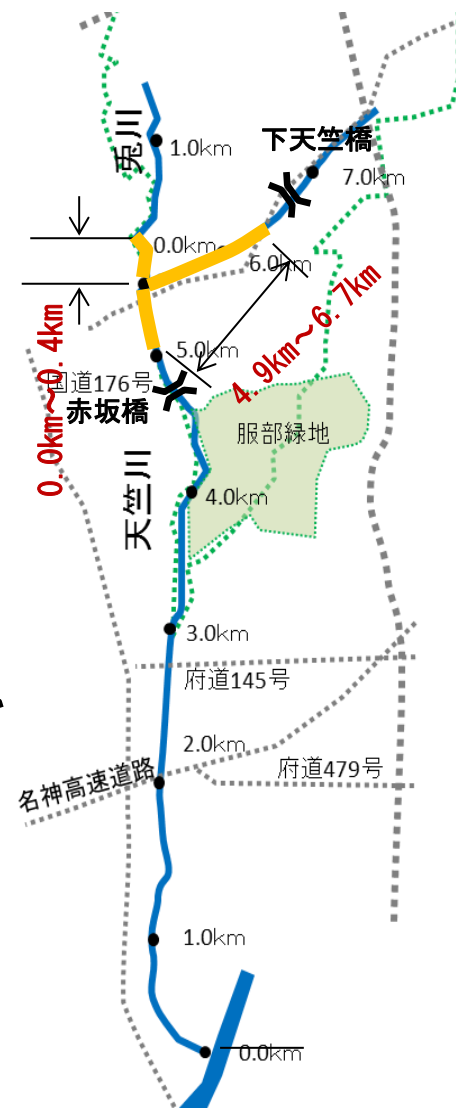


天竺川 改修断面図

天竺川合流点から0.07km



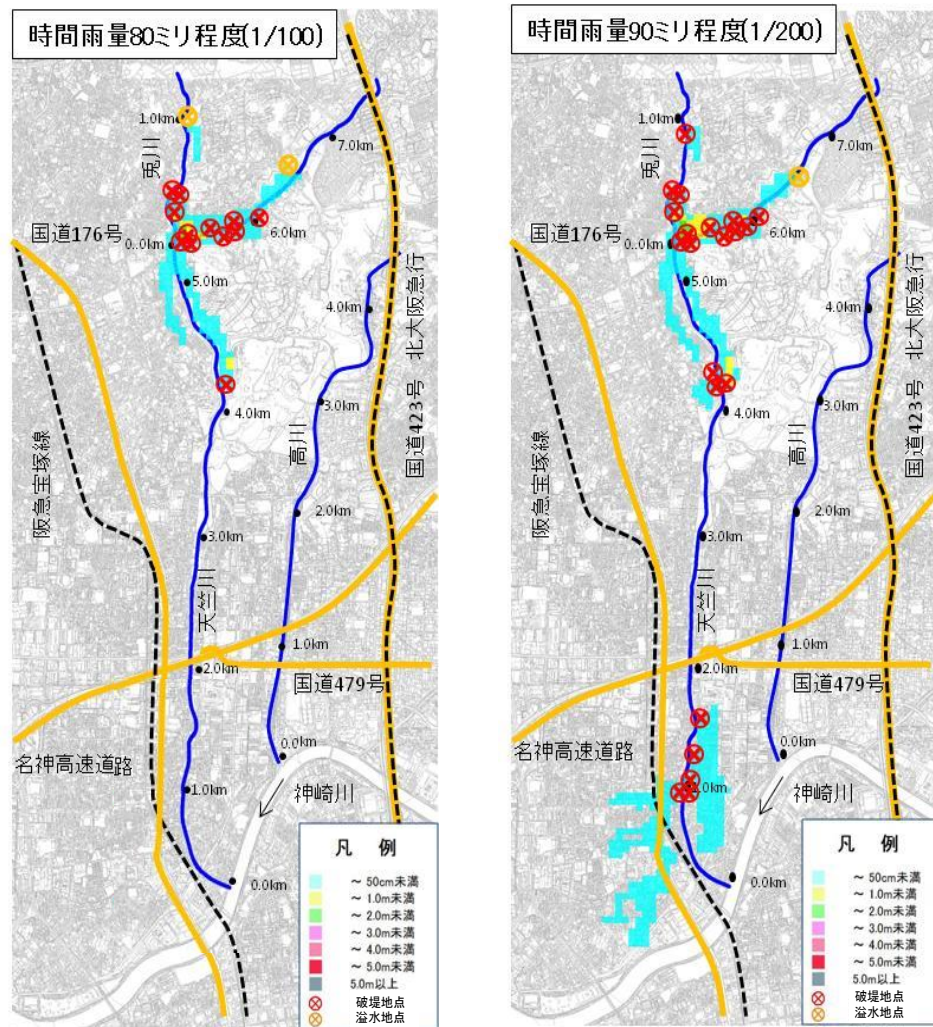
兎川 改修断面図



改修区間位置図

1. 当面の治水目標【天竺川・兎川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量65ミリ程度対策後での氾濫解析結果（天竺川・兎川）



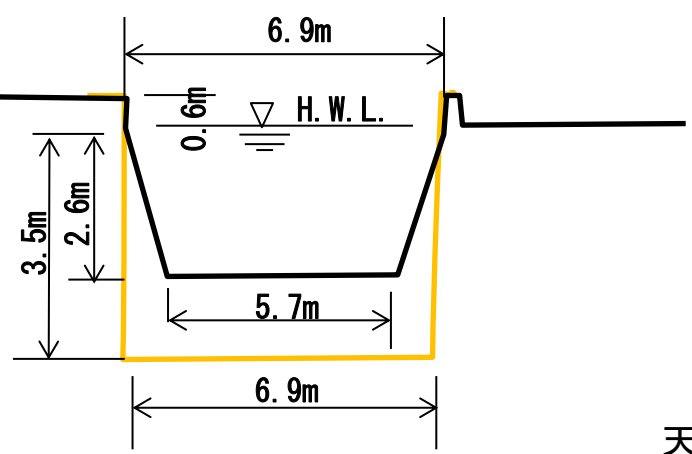
※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

4. 当面の治水目標【天竺川・兎川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策の想定

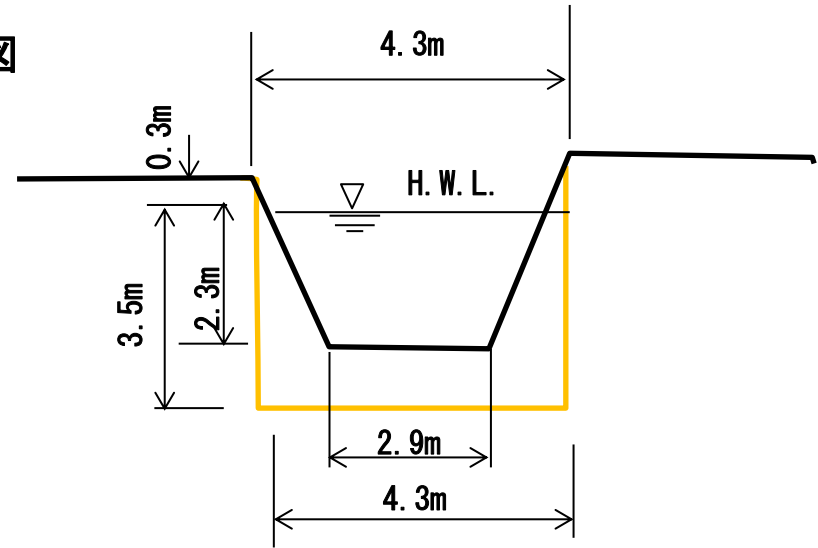
流下能力が不足する区間について、河川改修による時間雨量80ミリ程度対策を実施

神崎川合流点から5.7km

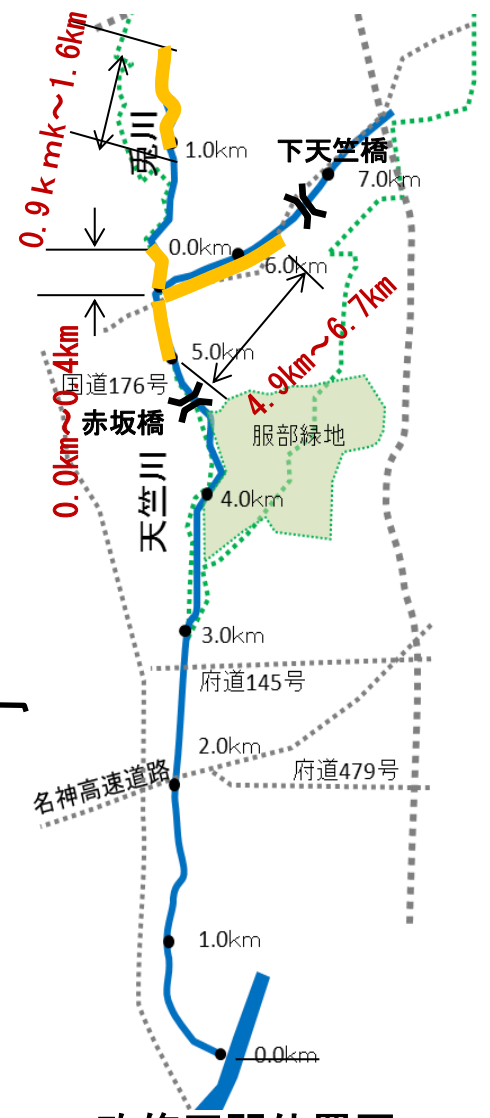


天竺川 改修断面図

天竺川合流点から0.07km



兎川 改修断面図



改修区間位置図

4. 当面の治水目標【天竺川・兎川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策後での氾濫解析結果（天竺川・兎川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【天竺川・兔川】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

■65ミリ/h程度対応

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	130.25ha 18,900人 25,366百万円	5.00ha 661人 2,771百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	210.75ha 26,025人 35,263百万円	13.50ha 1,862人 8,549百万円	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

■80ミリ/h程度対応

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	59.00ha 8,082人 8,431百万円	1.00ha 150人 508百万円	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

(50ミリ程度対策後からの65ミリ程度対応への評価)

効果：8,200百万円
費用：600百万円

効果－費用：7,600百万円

(50ミリ程度対策後からの80ミリ程度対応への評価)

効果：11,500百万円
費用：900百万円

効果－費用：10,600百万円

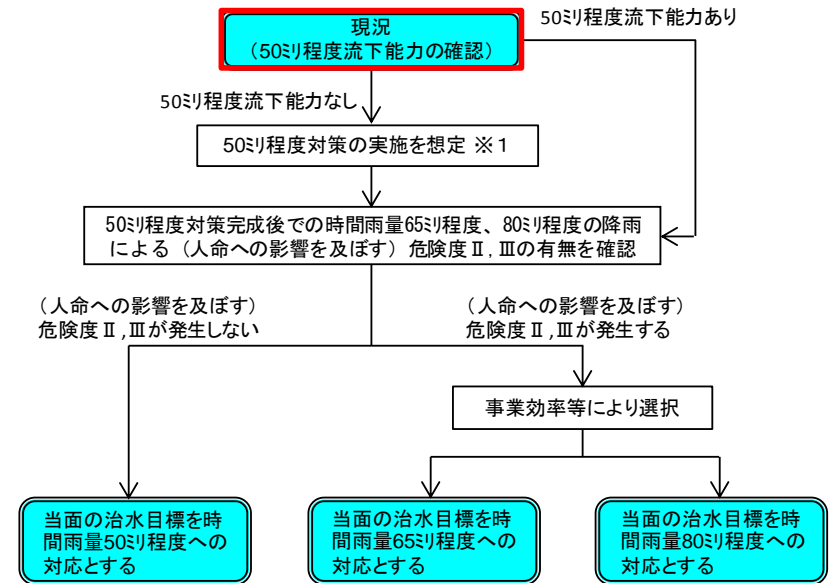
当面の治水目標を「時間雨量80mm程度」対応とする

1. 当面の治水目標【高川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

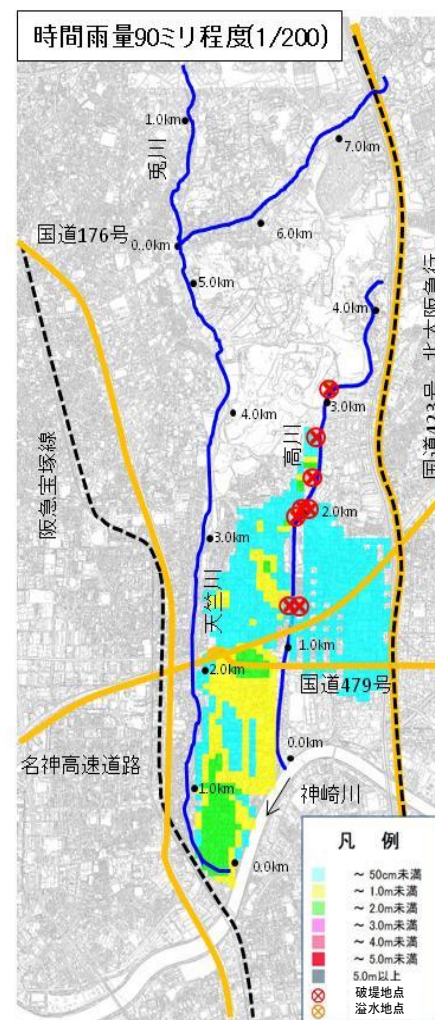
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- ため池の貯留効果を考慮しない
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【高川：現況河道における氾濫解析】

■ 現況河道での氾濫解析結果（高川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

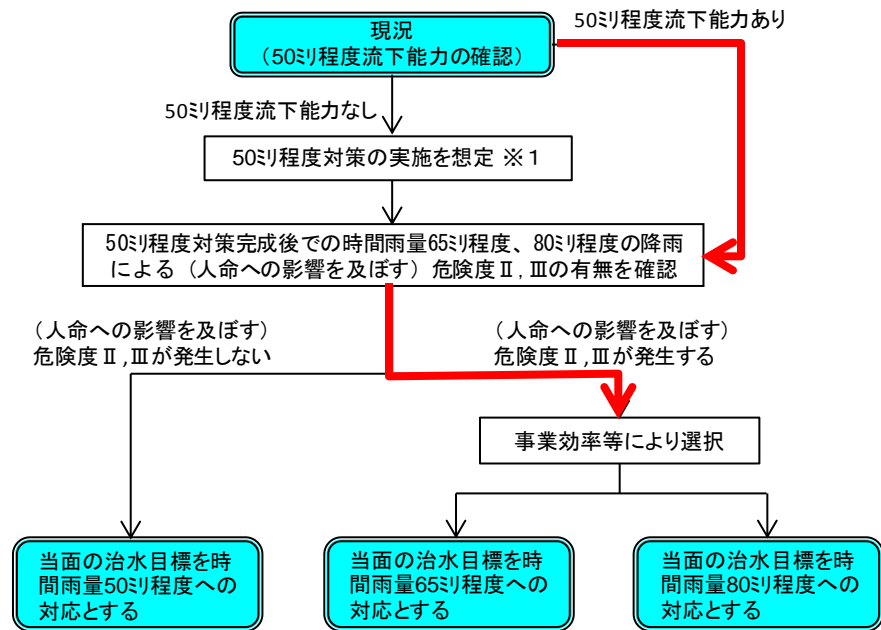
1. 当面の治水目標【高川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道を50ミリ程度対策河道とみなした場合、時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が発生する。



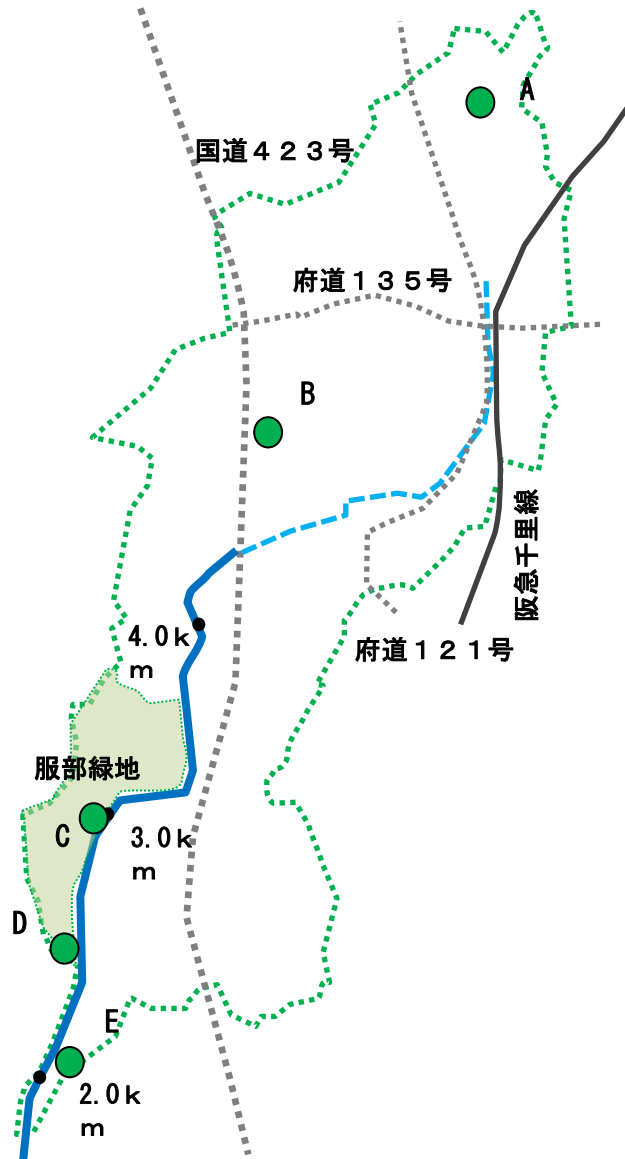
当面の治水目標は事業効率などにより設定する

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
(発生頻度)	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	238.25ha 28,970人 48,757百万円	61.00ha 6,999人 37,469百万円	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	250.50ha 30,471人 51,466百万円	101.00ha 12,092人 67,591百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	244.50ha 29,521人 49,207百万円	118.50ha 14,380人 84,438百万円	被害なし
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
		(被害の程度) ← 小 → 大		



1. 当面の治水目標【高川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■流出抑制効果が期待できるため池



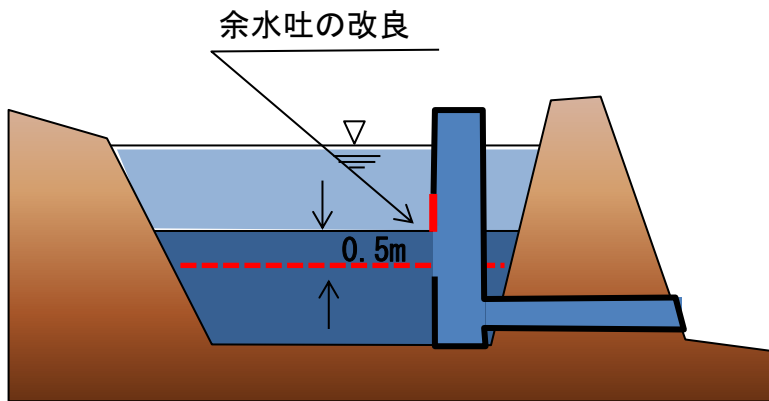
高川の代表的なため池

ため池名	ため池の面積 (m ²)
A池	16,000
B池	16,000
C池	19,000
D池	28,000
E池	5,000

○池面積5,000m²以上

1. 当面の治水目標【高川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ため池の貯留効果を考慮して、時間雨量65ミリ程度対応の目標設定をする。



ため池の有効利用イメージ図

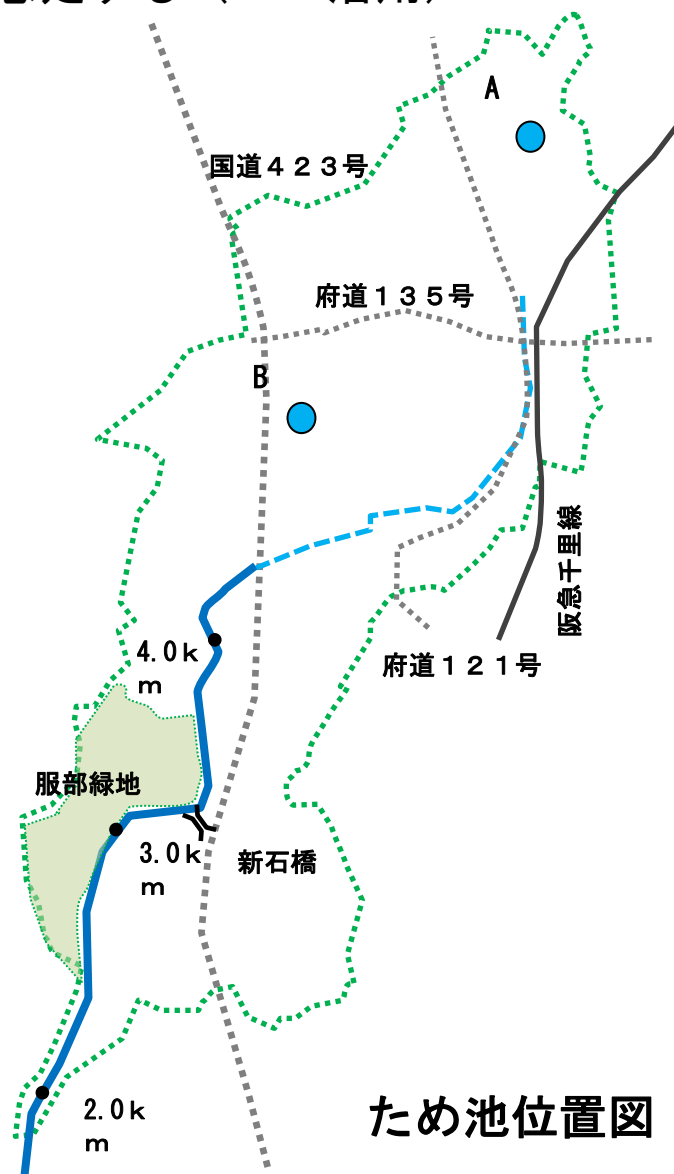


ため池の有効利用イメージ図

1. 当面の治水目標【高川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ 時間雨量65ミリ程度対策の想定

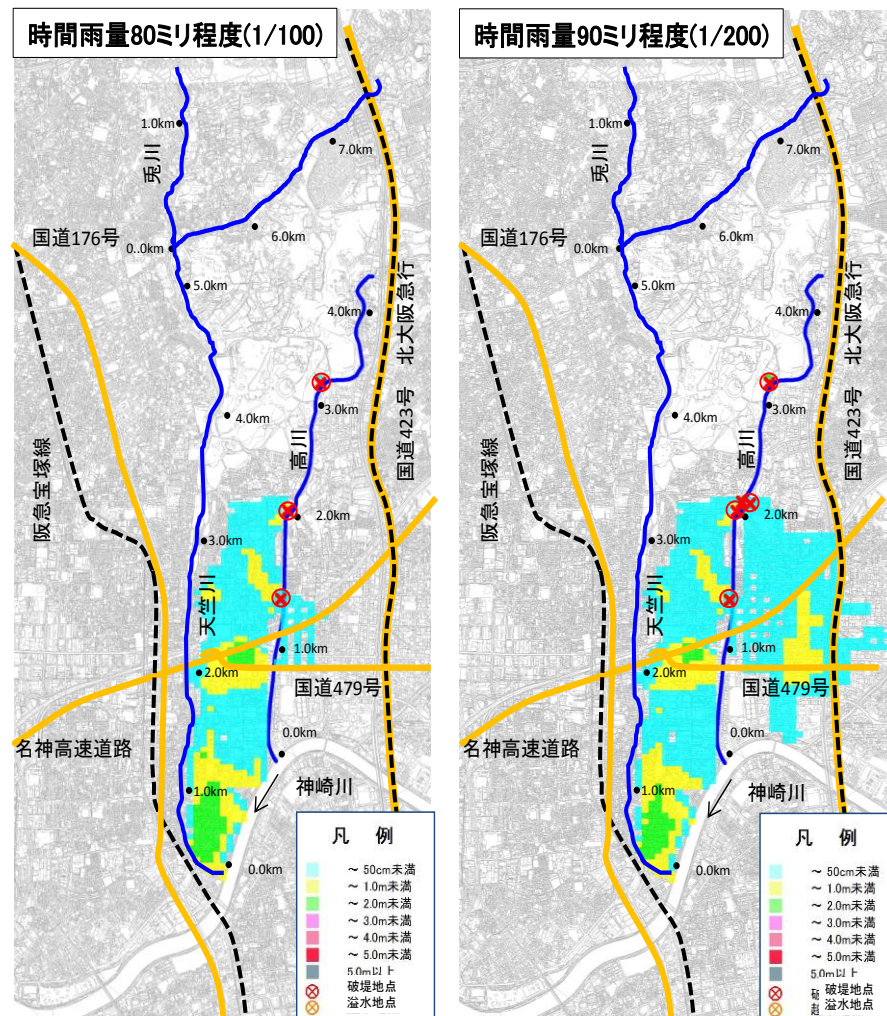
ため池の治水活用を想定する（2つ活用）



ため池位置図

1. 当面の治水目標【高川：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量65ミリ程度対策後での氾濫解析結果（高川）

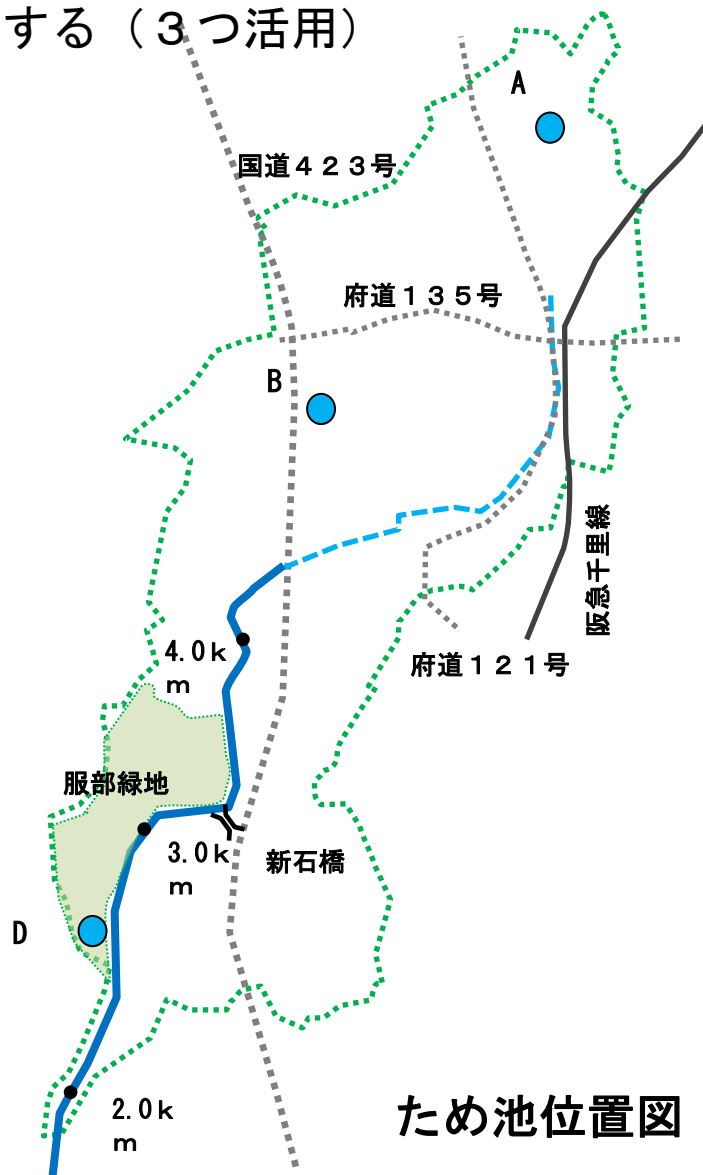


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【高川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策の想定

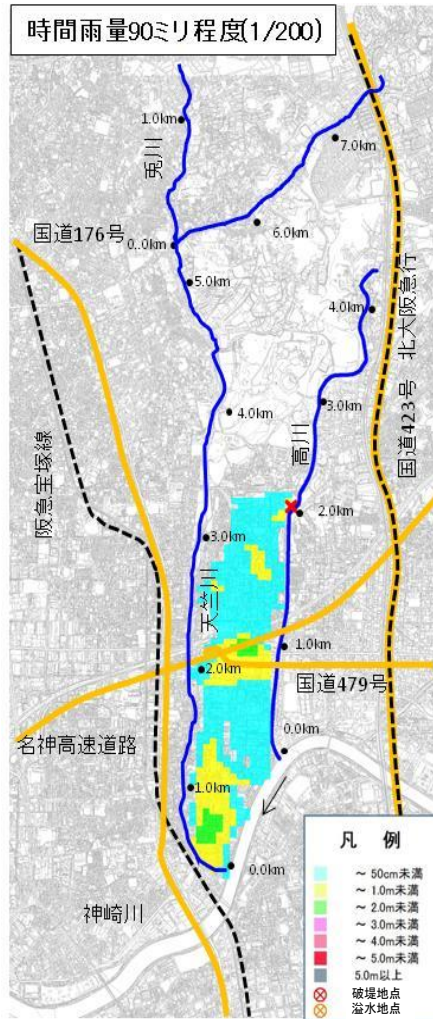
ため池の貯留効果を考慮して、時間雨量80ミリ程度対応の目標設定をする。
ため池の治水活用を想定する（3つ活用）



ため池位置図

1. 当面の治水目標【高川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■80ミリ程度対策後での氾濫解析結果（高川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【高川】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

■65ミリ/h程度対応（ため池2つ考慮）

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	235.75ha 28,780人 48,988百万円	95.00ha 11,317人 62,108百万円	被害なし
90ミリ程度 (1/200)	244.00ha 29,509人 48,502百万円	115.50ha 14,026人 81,685百万円	被害なし

小 ← (被害の程度) → 大

■80ミリ/h程度対応（ため池3つ考慮）

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (1/200)	230.00ha 27,722人 46,263百万円	103.00ha 12,358人 70,304百万円	被害なし

小 ← (被害の程度) → 大

（50ミリ程度対策後からの65ミリ程度対応への評価）

効果：29,500百万円
費用：20百万円

効果－費用：29,480百万円

（50ミリ程度対策後からの80ミリ程度対応への評価）

効果：41,700百万円
費用：30百万円

効果－費用：41,670百万円

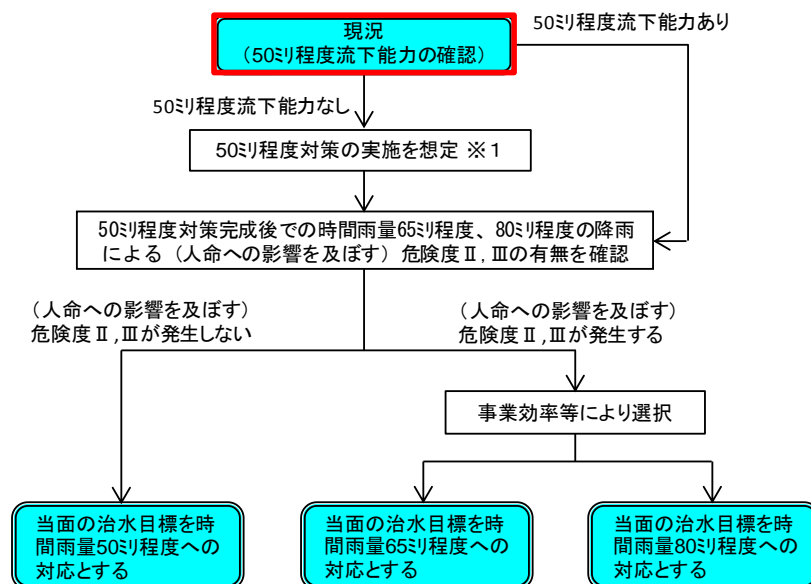
当面の治水目標を「時間雨量80mm程度」対応とする

1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- ため池の貯留効果を考慮しない
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



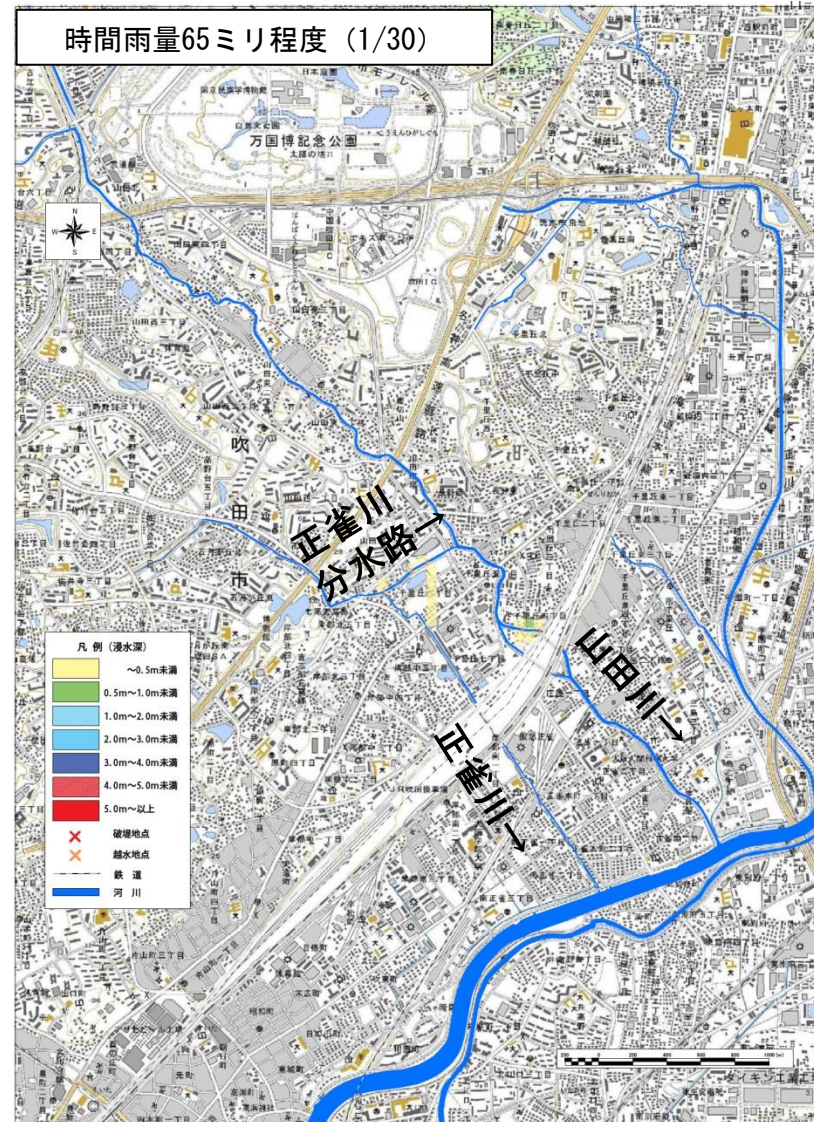
当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（山田川・正雀川・正雀川分水路）

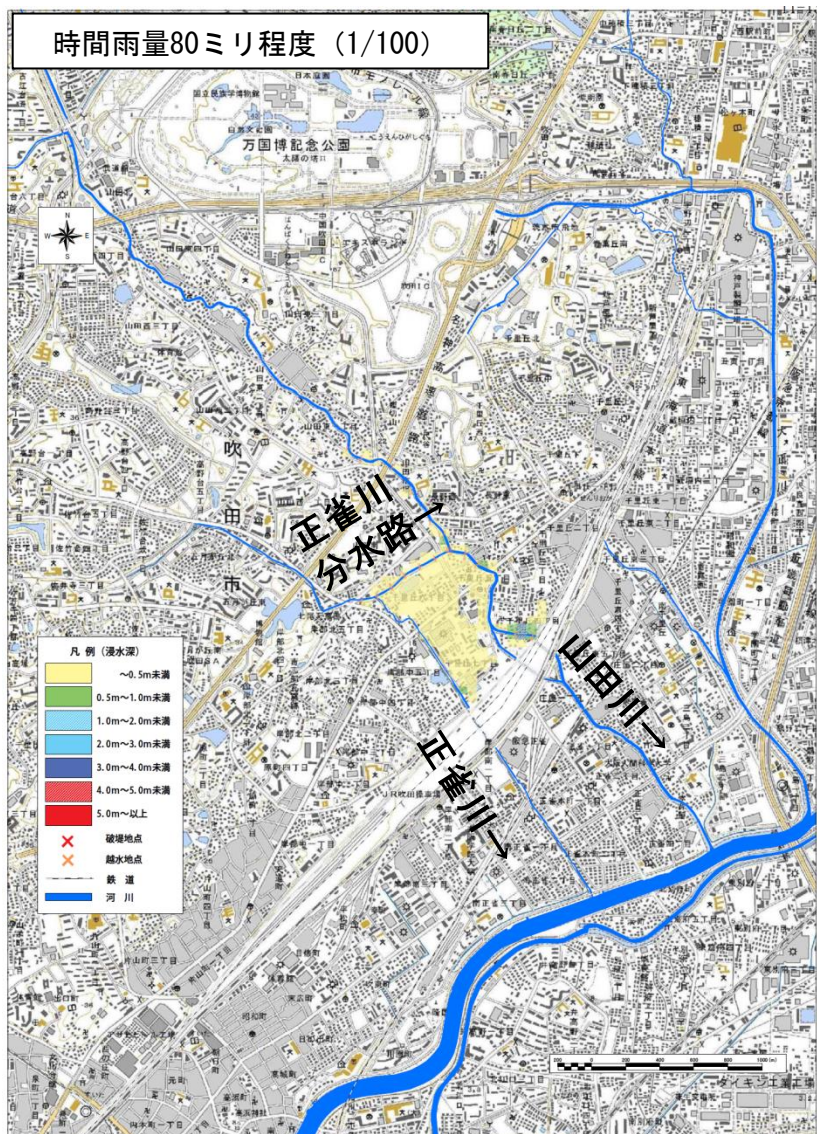


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

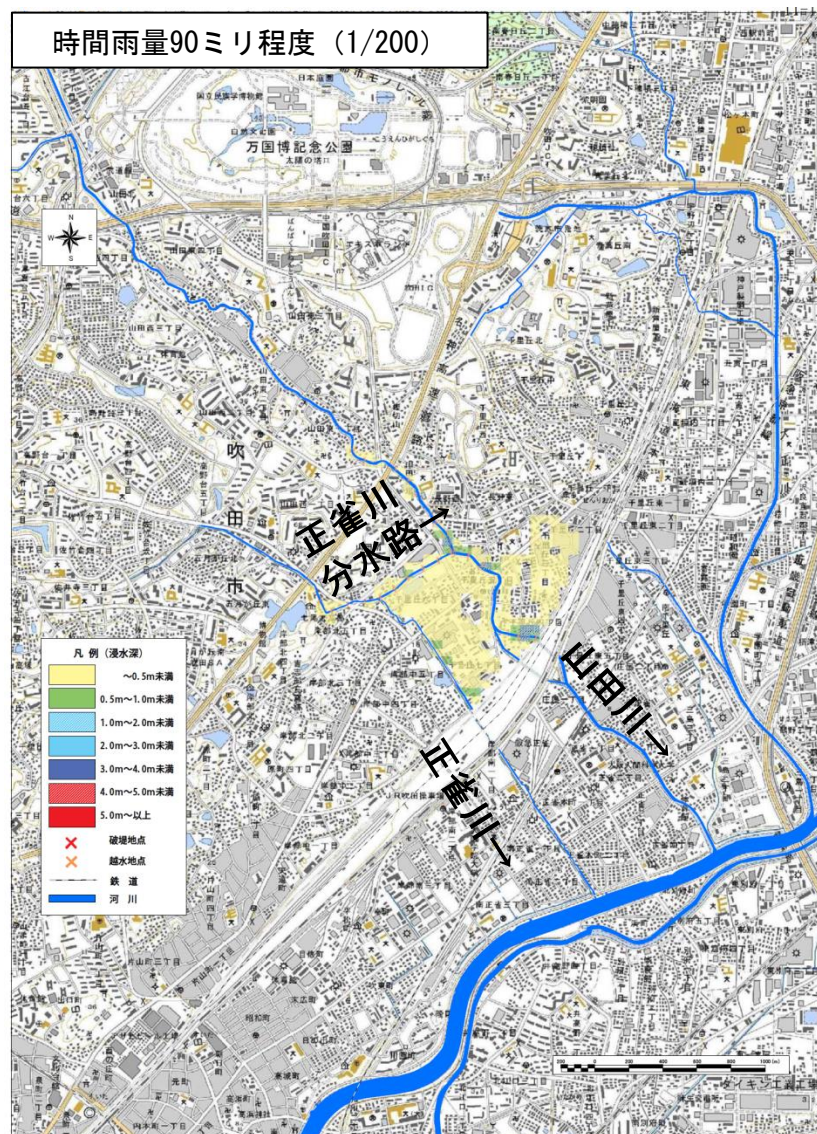


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：現況河道における氾濫解析】



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)

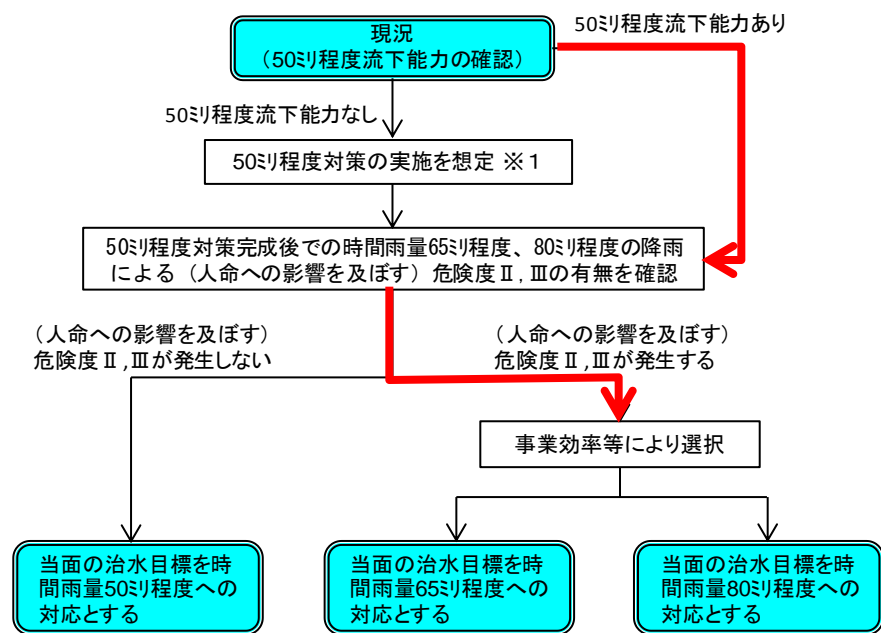
1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道を50ミリ程度対策河道とみなした場合、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱの被害が発生する



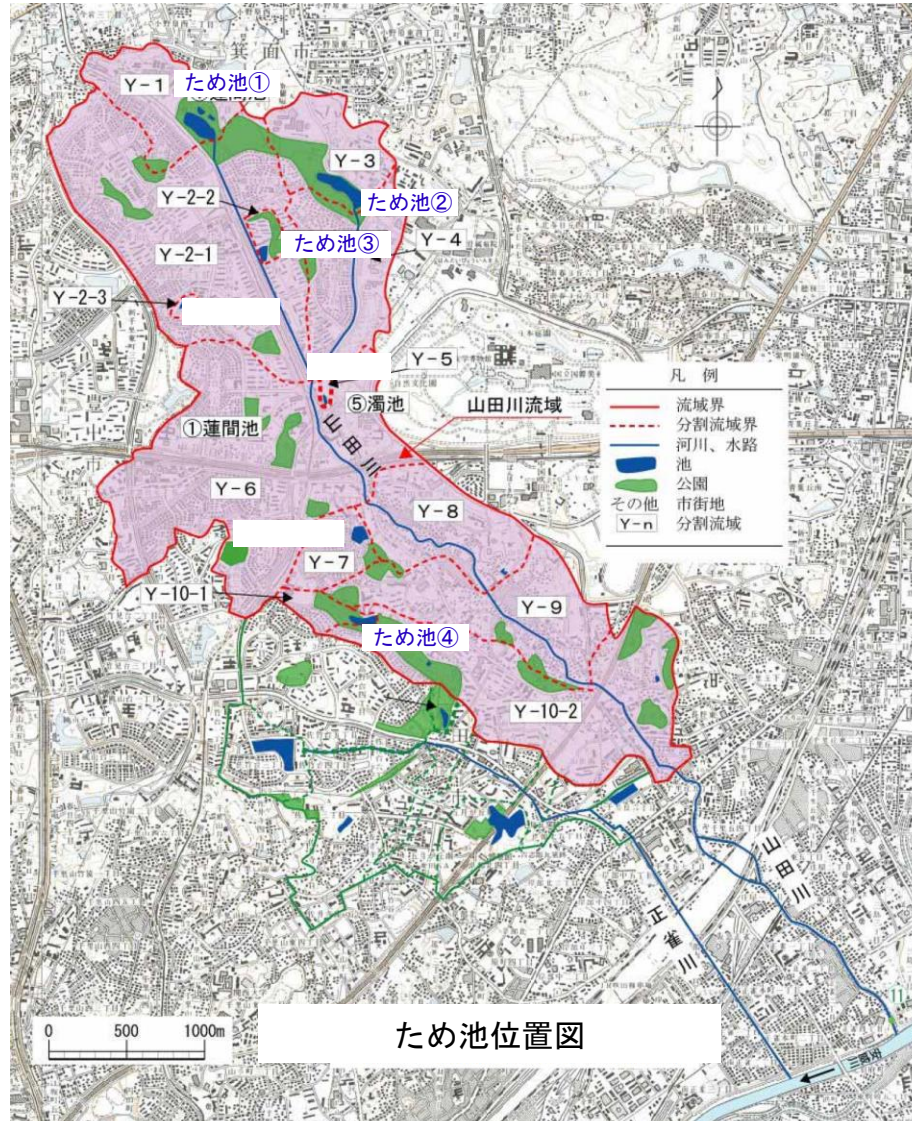
当面の治水目標は事業効率などにより設定する

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	4.00ha 382人 500百万円	0.25ha 43人 50百万円	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	17.00ha 1,372人 1,900百万円	2.25ha 182人 400百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	23.00ha 2,278人 2,800百万円	4.75ha 400人 900百万円	被害なし
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
		小	大	
		(被害の程度)		



■時間雨量65ミリ程度対策の想定

ため池の治水活用を想定する（4つ活用）

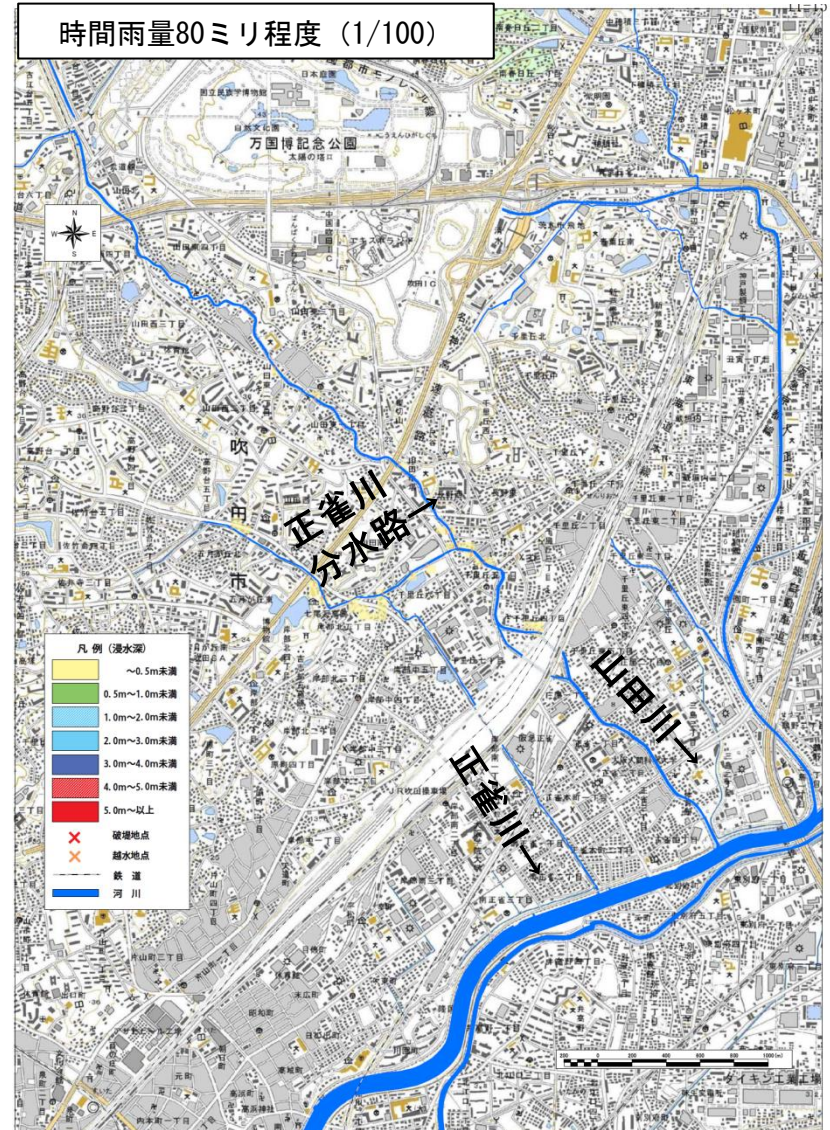


1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量65ミリ程度対策後での氾濫解析結果（山田川・正雀川・正雀川分水路）

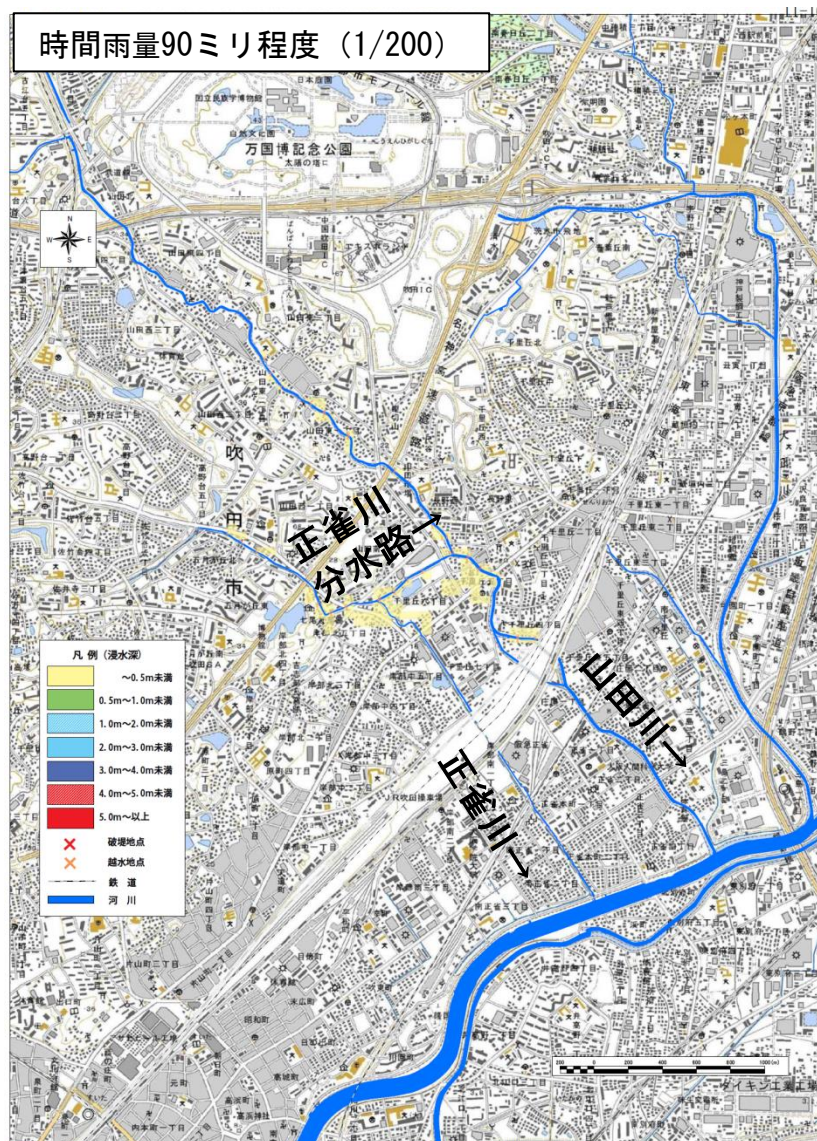


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

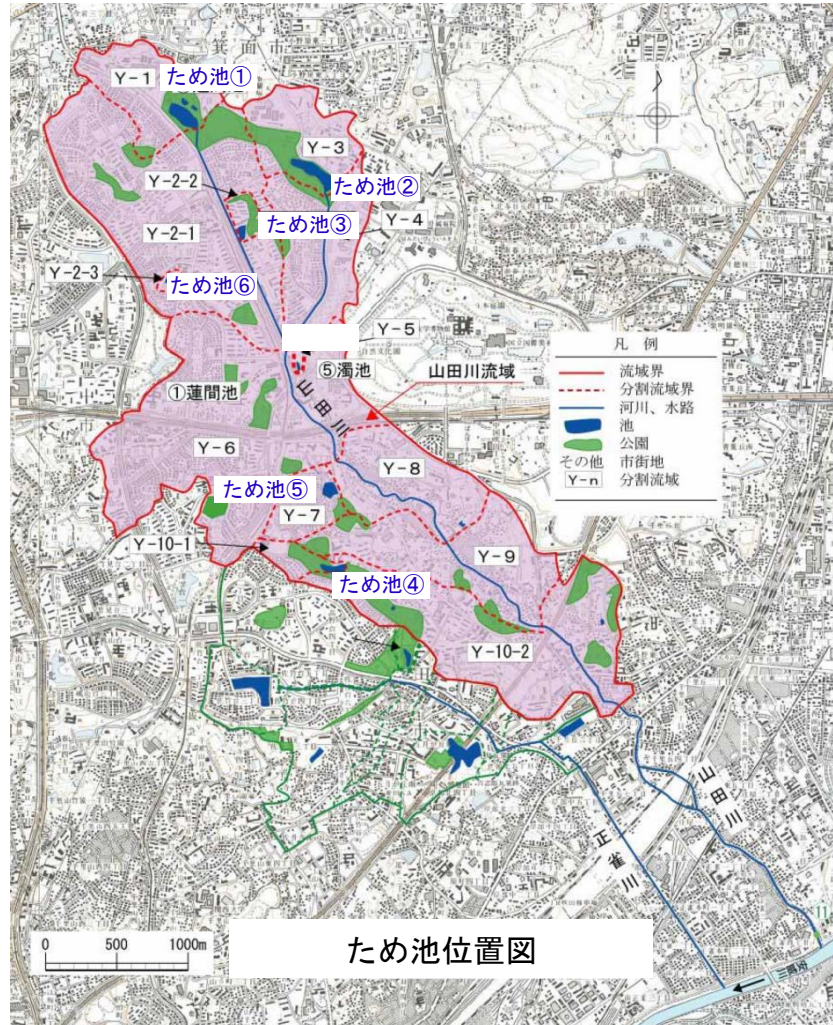
1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：65ミリ程度対策後における氾濫解析】



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

■時間雨量80ミリ程度対策の想定

ため池の治水活用を想定する（6つ活用）

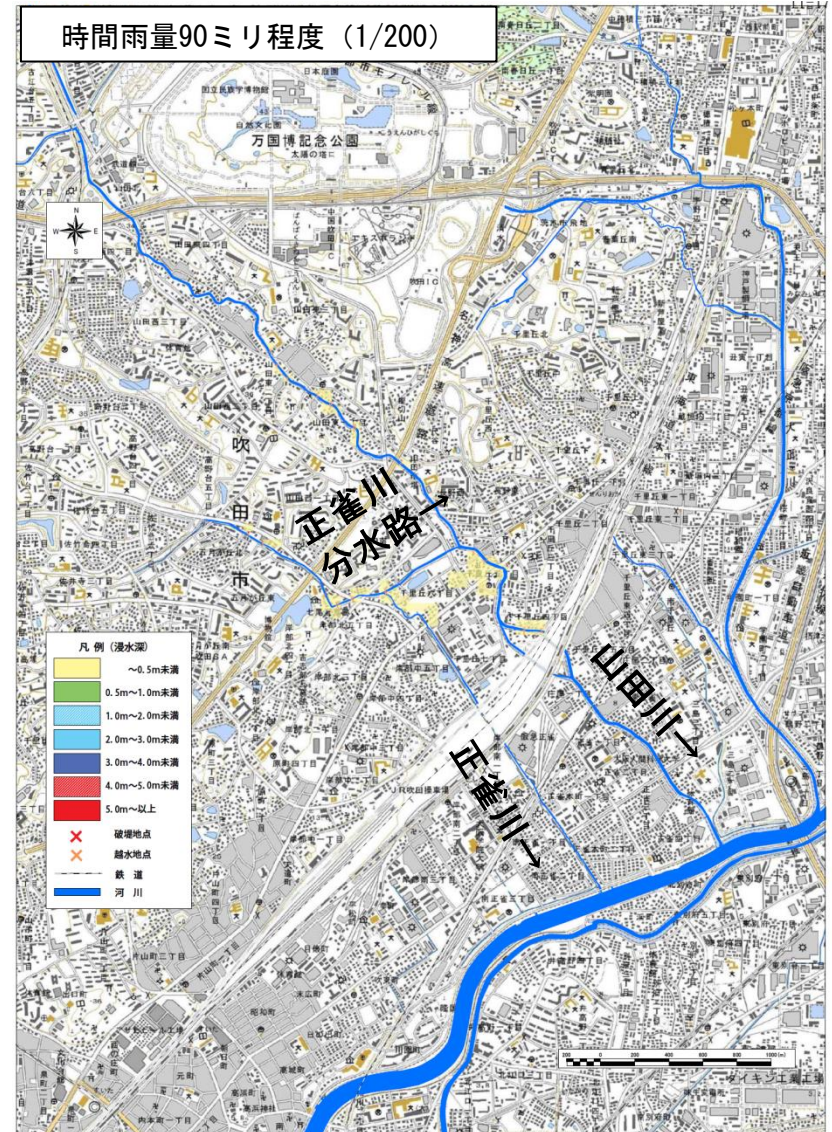


1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策後での氾濫解析結果（山田川・正雀川・正雀川分水路）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【山田川・正雀川・正雀川分水路】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

■65ミリ/h程度対応（ため池4つ考慮）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	4.00ha 574人 500百万円	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	17.00ha 1,954人 2,000百万円	被害なし	被害なし
		小 ←	→ 大 (被害の程度)	

■80ミリ/h程度対応（ため池6つ考慮）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	13.00ha 1,358人 1,500百万円	被害なし	被害なし
		小 ←	→ 大 (被害の程度)	

（50ミリ程度対策後からの65ミリ程度対応への評価）

効果：1,090百万円
費用：80百万円

効果－費用：1,010百万円

（50ミリ程度対策後からの80ミリ程度対応への評価）

効果：1,210百万円
費用：110百万円

効果－費用：1,100百万円

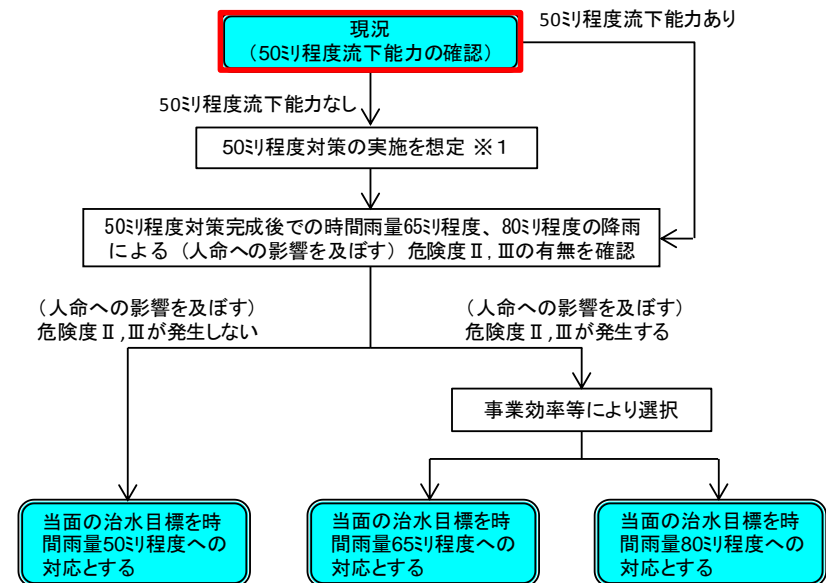
当面の治水目標を「時間雨量80mm程度」対応とする

1. 当面の治水目標【大正川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

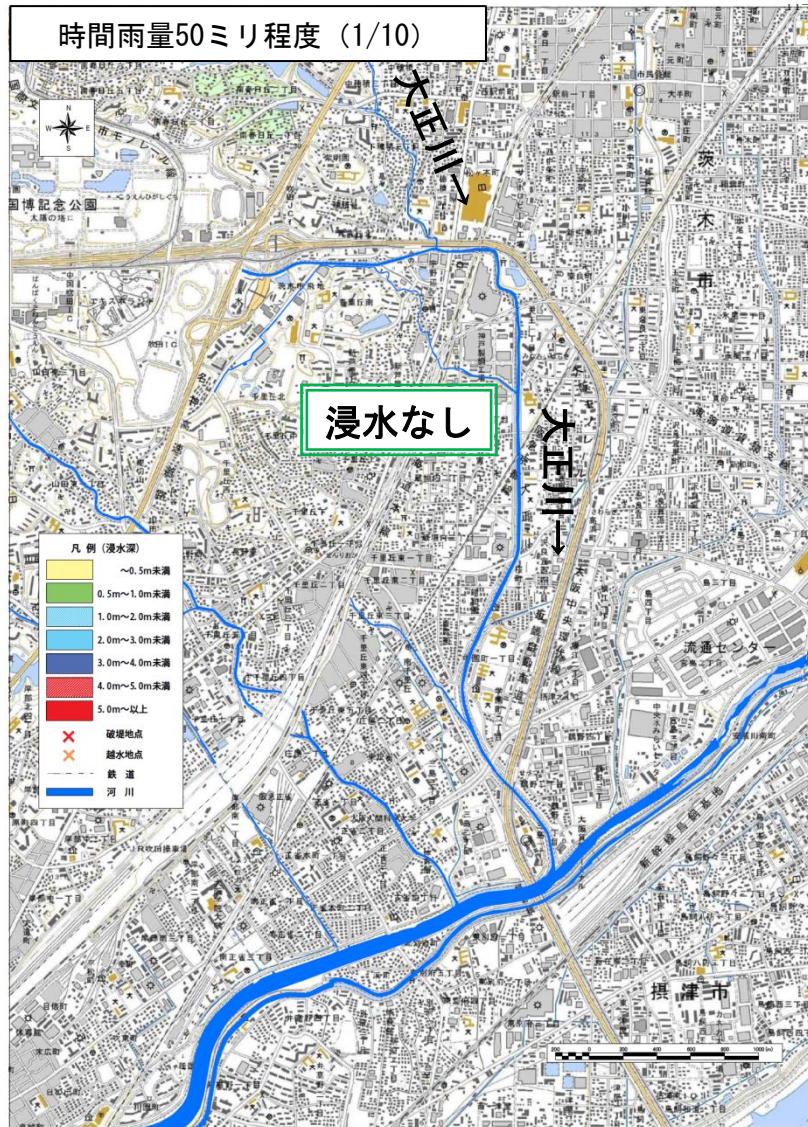
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



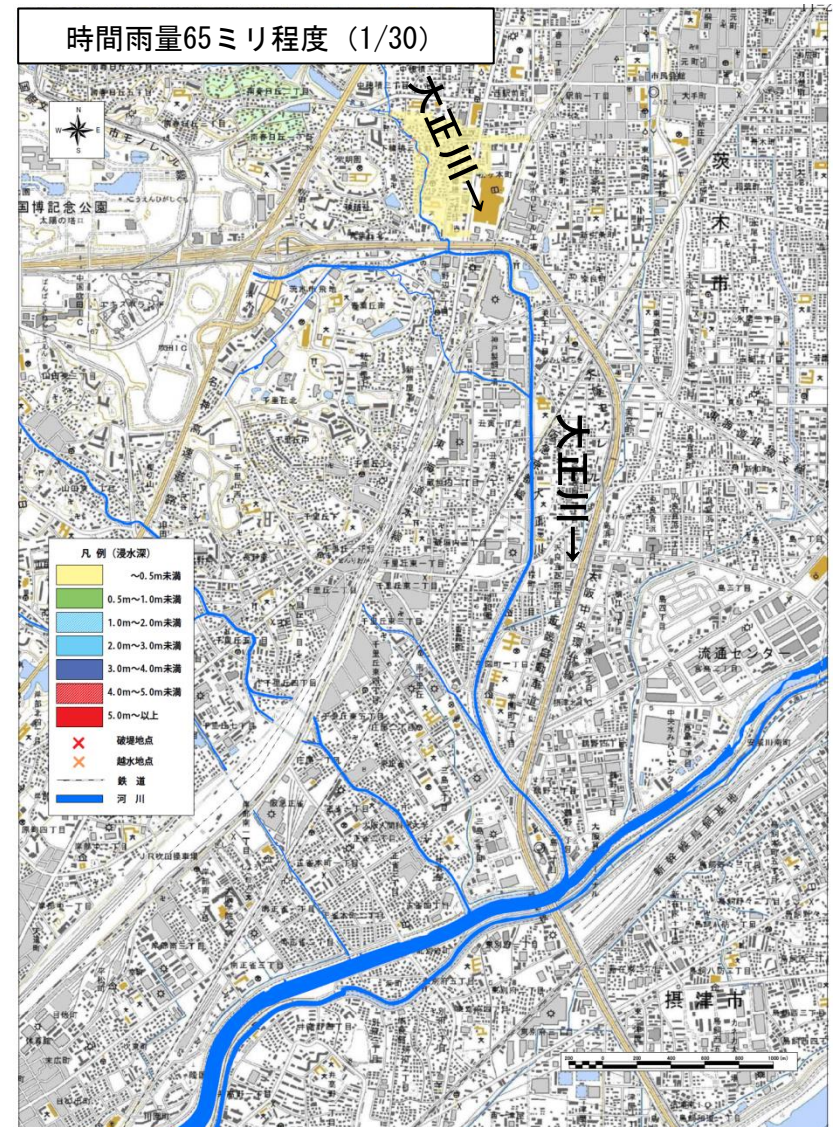
当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【大正川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（大正川）

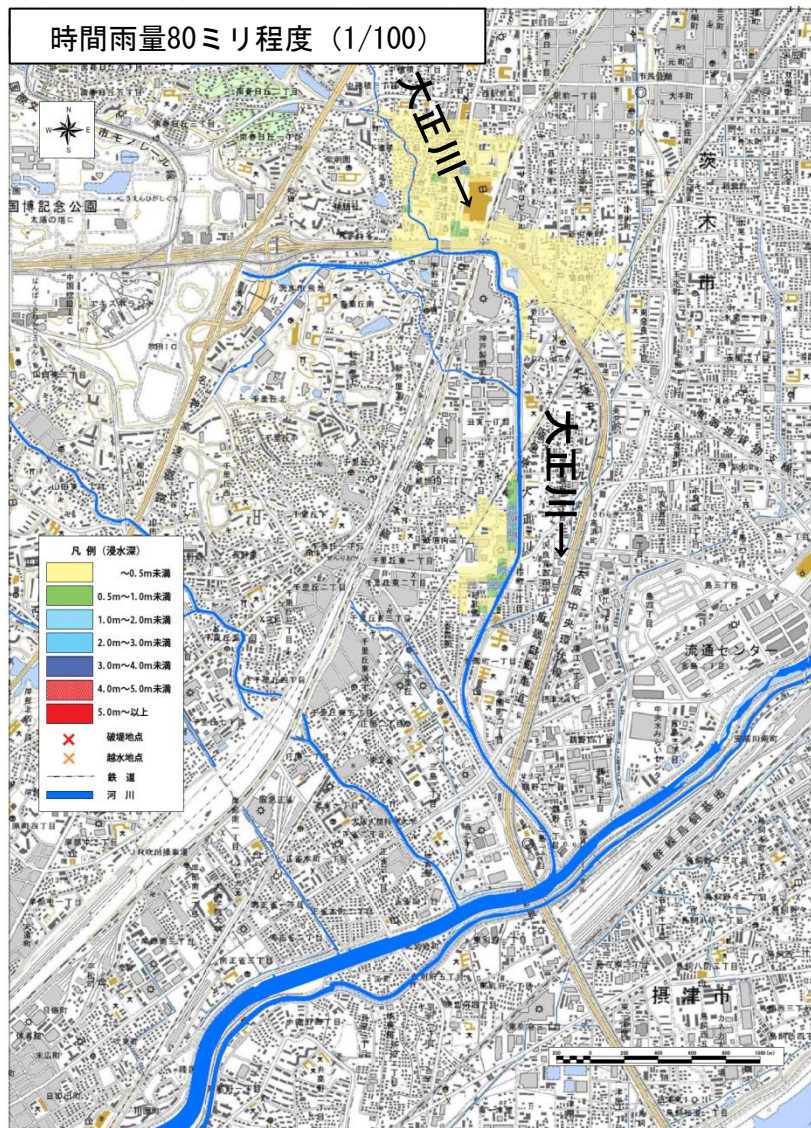


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

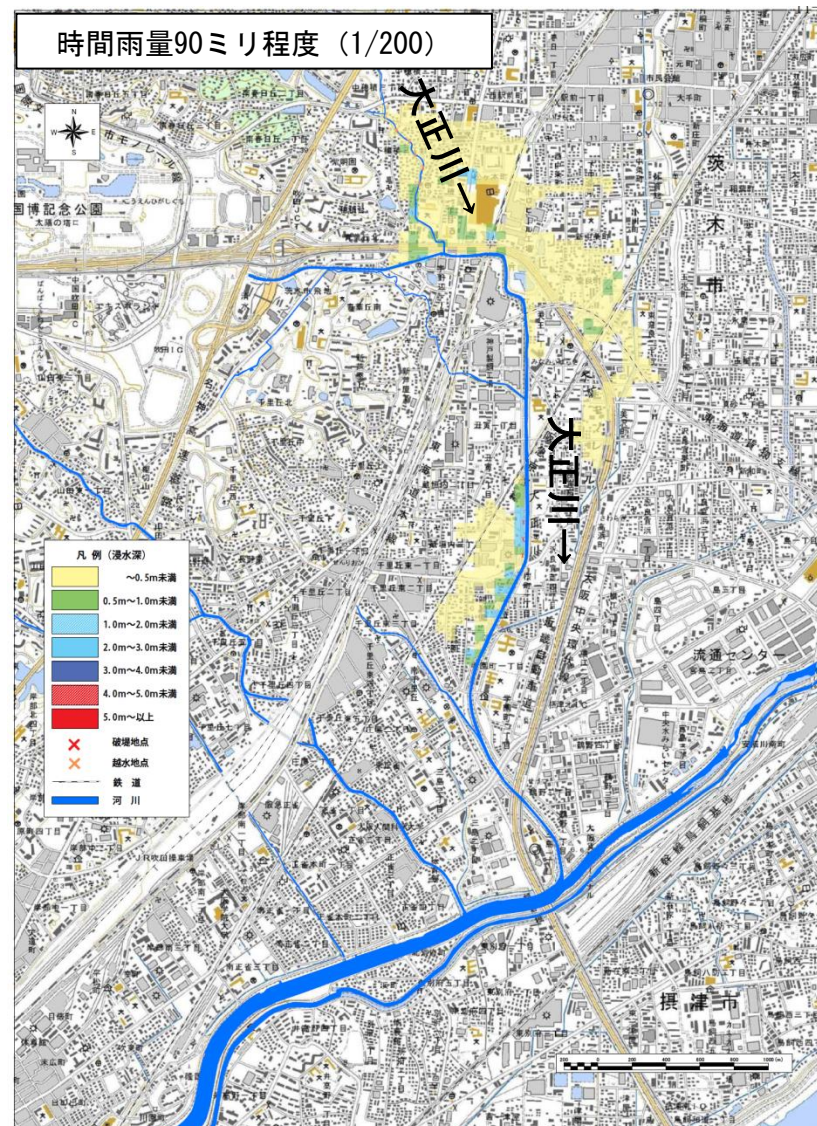


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【大正川：現況河道における氾濫解析】



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)

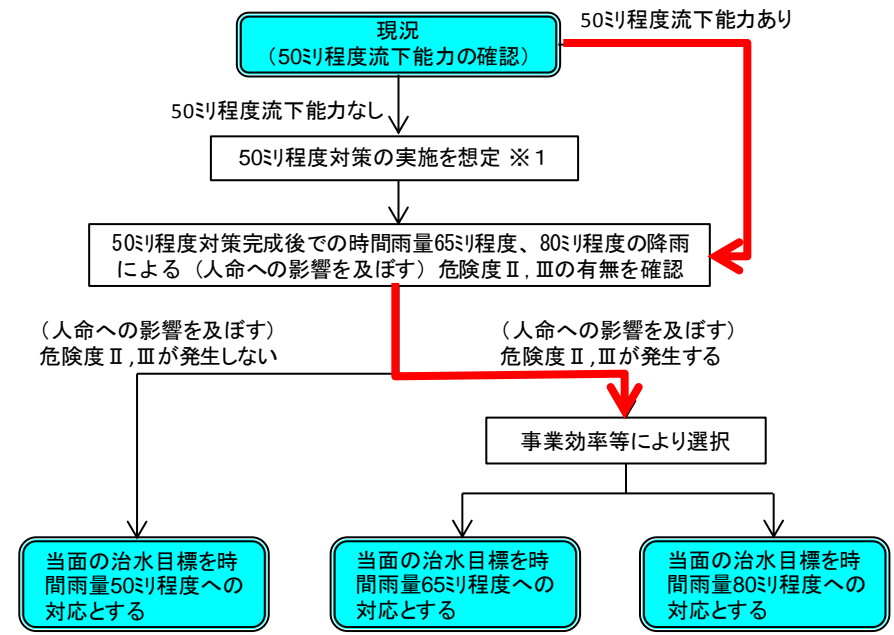
1. 当面の治水目標【大正川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では、被害は発生しない
- 現況河道を50ミリ程度対策河道とみなした場合、時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅰの被害が発生する。
⇒50ミリ程度対策河道（＝現況河道）は、65ミリ程度対策河道とする。
- 現況河道を50ミリ程度対策河道とみなした場合、時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ・Ⅱの被害が発生する



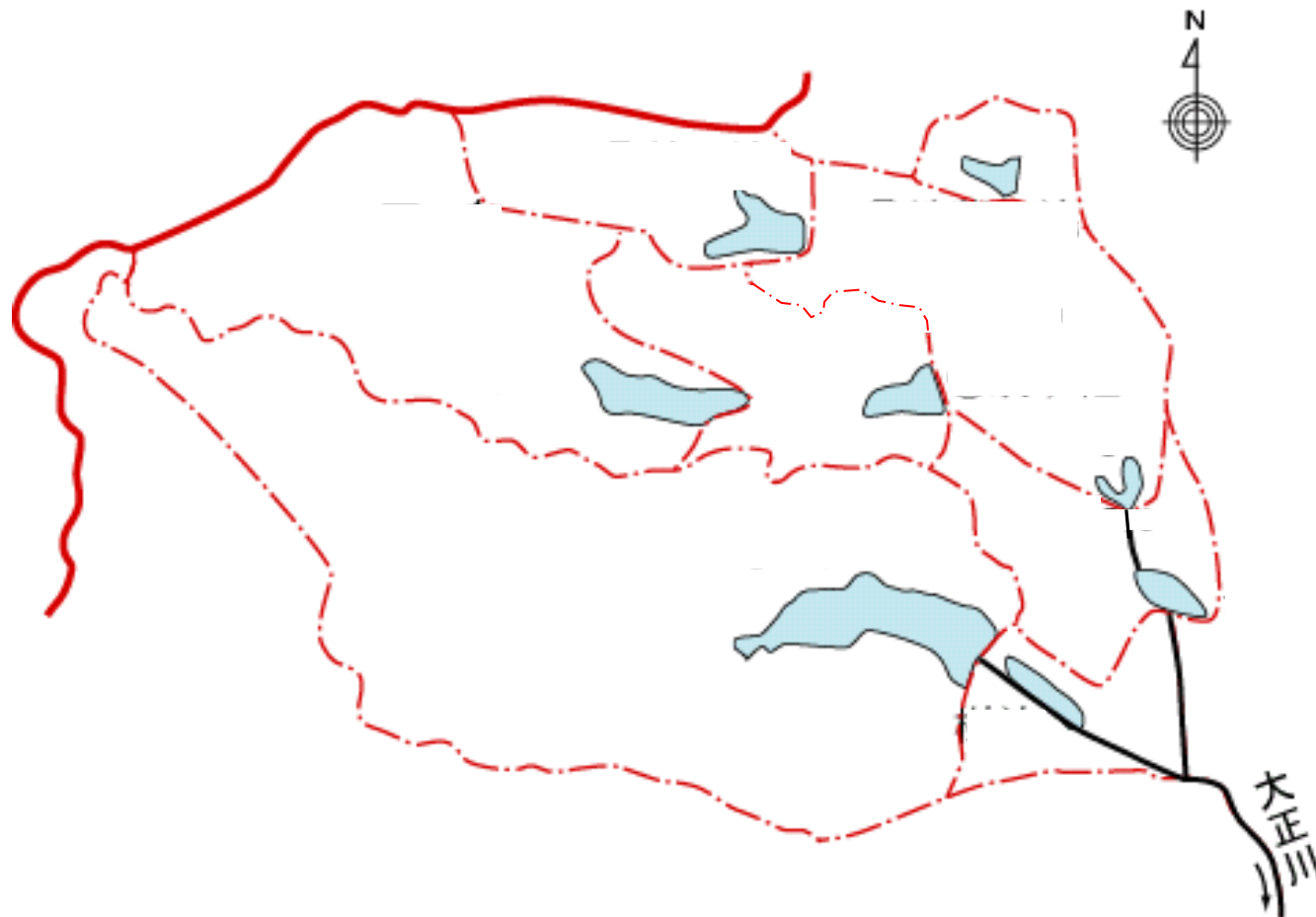
当面の治水目標は事業効率などにより設定する

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	22.00ha 2,706人 3,700百万円	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	38.00ha 4,687人 6,400百万円	5.50ha 637人 1,100百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	47.00ha 6,002人 7,800百万円	14.50ha 1,779人 3,300百万円	被害なし
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
		小 ← (被害の程度) → 大		



1. 当面の治水目標【大正川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

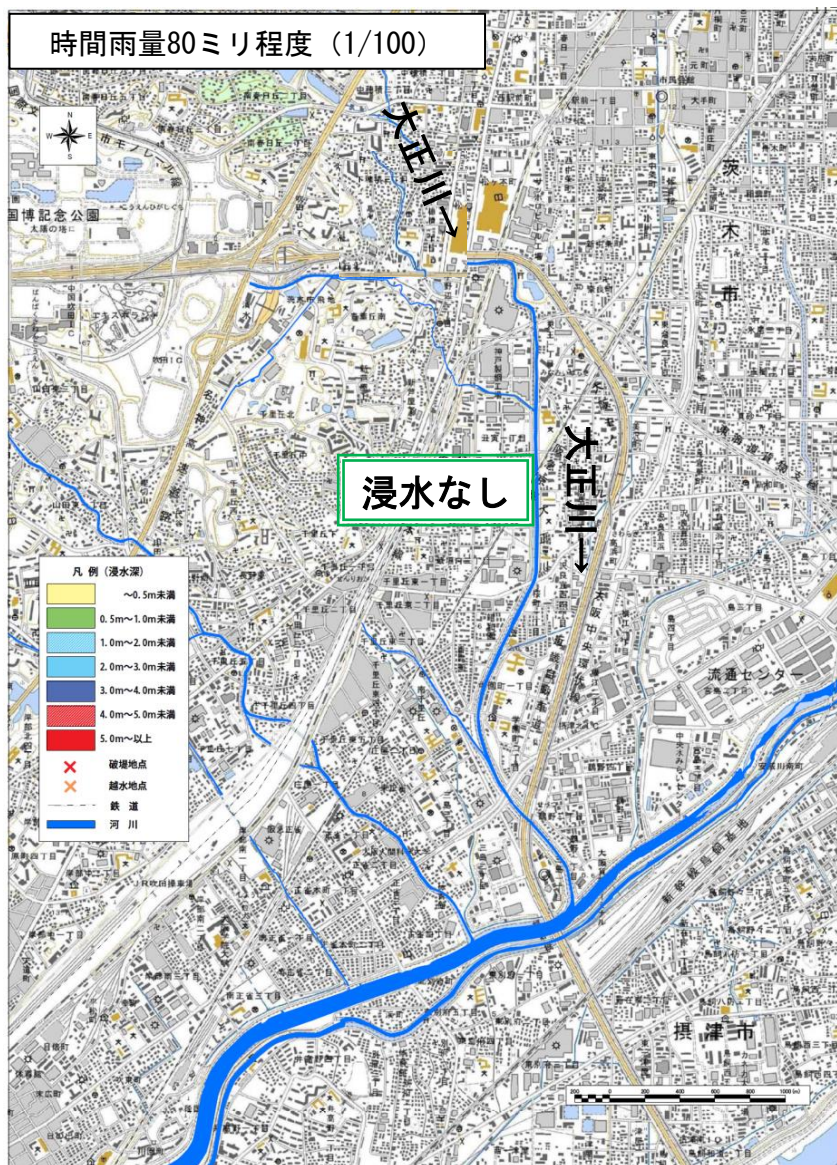
- 時間雨量80ミリ程度対策の想定
ため池の治水活用を想定する（7つ活用）



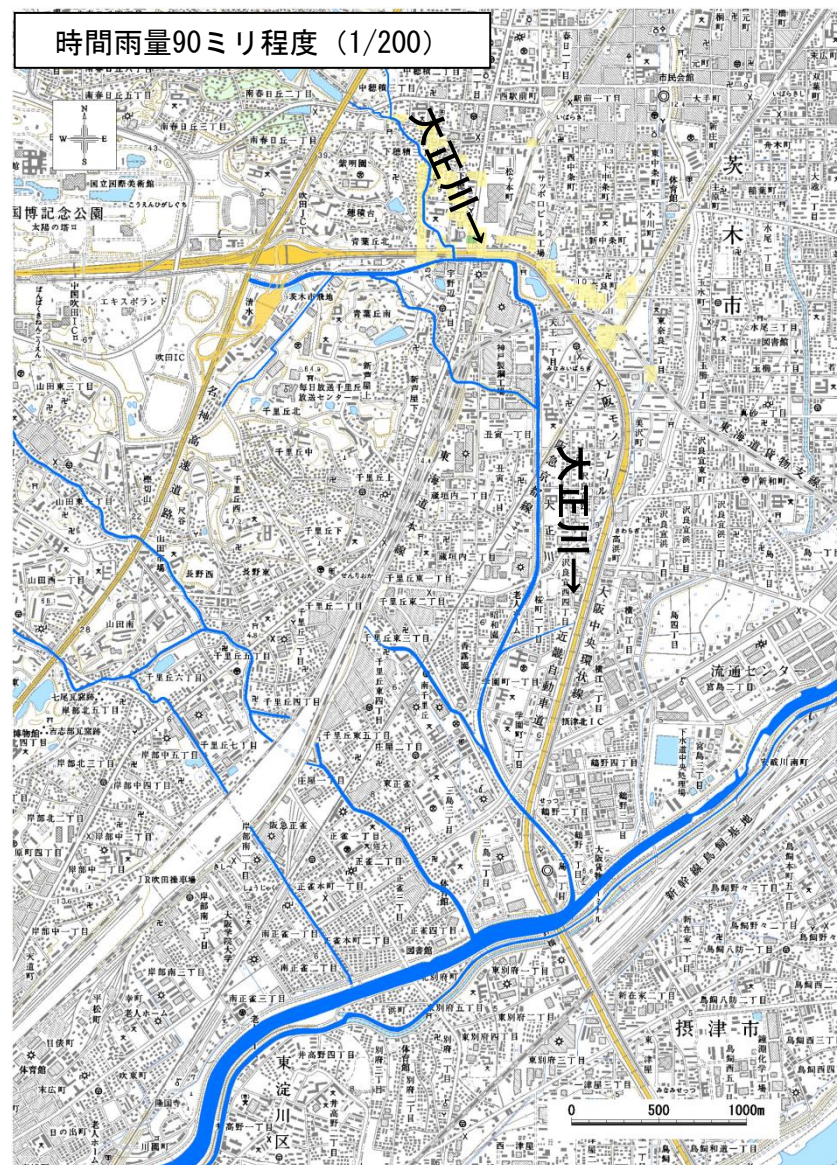
ため池位置図

1. 当面の治水目標【大正川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策後での氾濫解析結果（大正川）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【大正川】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

■65ミリ/h程度対応（現況河道）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	22.00ha 2,706人 3,700百万円	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	38.00ha 4,687人 6,400百万円	5.50ha 637人 1,100百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	47.00ha 6,002人 7,800百万円	14.50ha 1,779人 3,300百万円	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

■80ミリ/h程度対応（ため池7つ考慮）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	22.50ha 2437人 4,800百万円	0.25ha 29人 200百万円	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

（50ミリ程度対策後からの65ミリ程度対応への評価）

効果：0百万円
費用：0百万円

効果－費用：0百万円



（50ミリ程度対策後からの80ミリ程度対応への評価）

効果：8,900百万円
費用：102百万円

効果－費用：8,798百万円

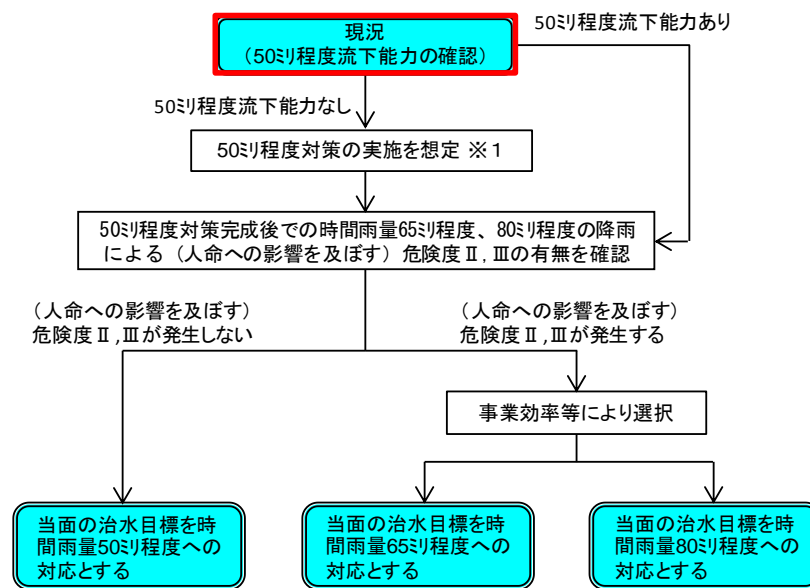
当面の治水目標を「時間雨量80mm程度」対応とする

1. 当面の治水目標【箕川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

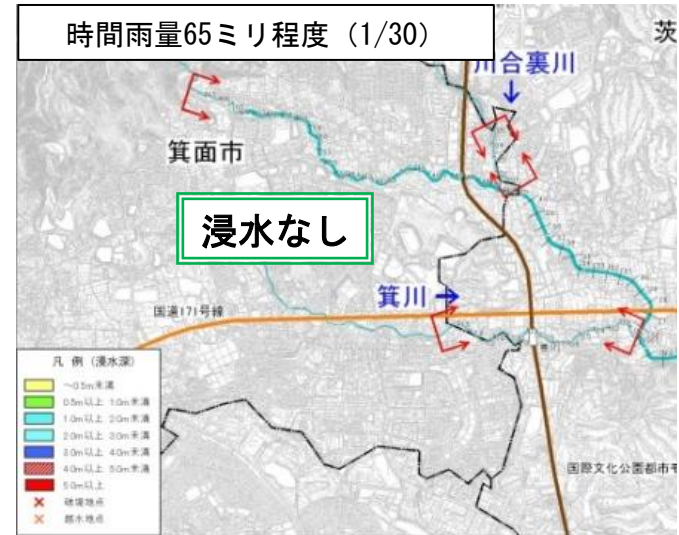
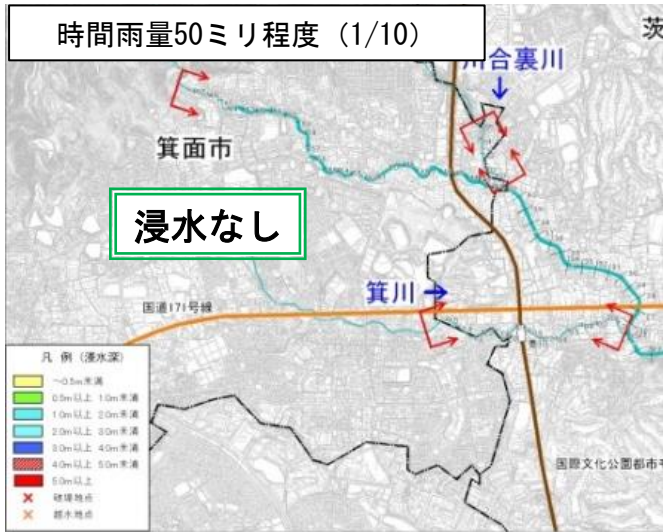
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- ため池の貯留効果を考慮しない
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【箕川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（箕川）



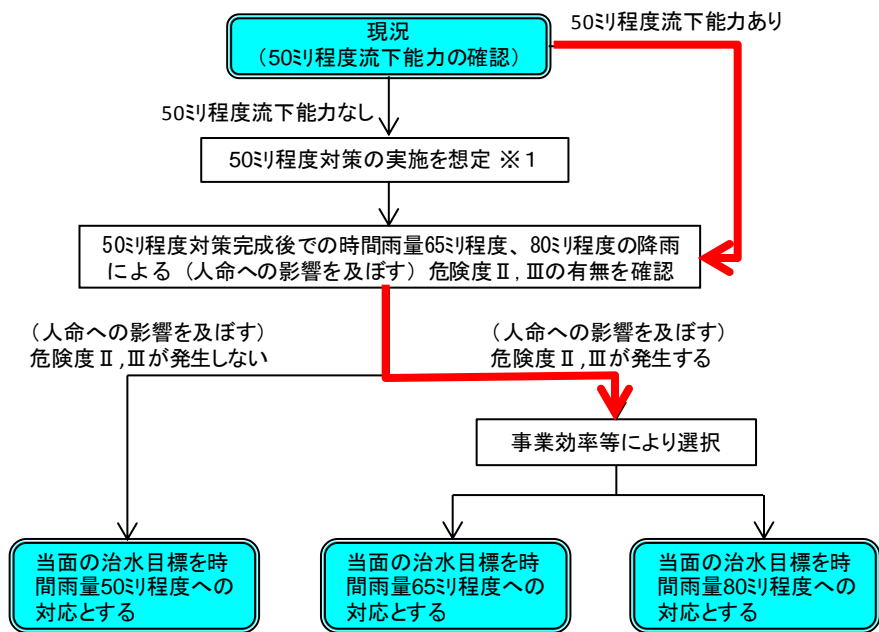
1. 当面の治水目標【箕川：現況河道における氾濫解析】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ、65ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道を50ミリ程度対策河道とみなした場合、時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱの被害が発生する。



当面の治水目標は事業効率などにより設定する

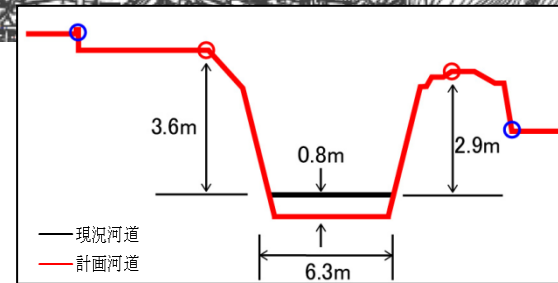
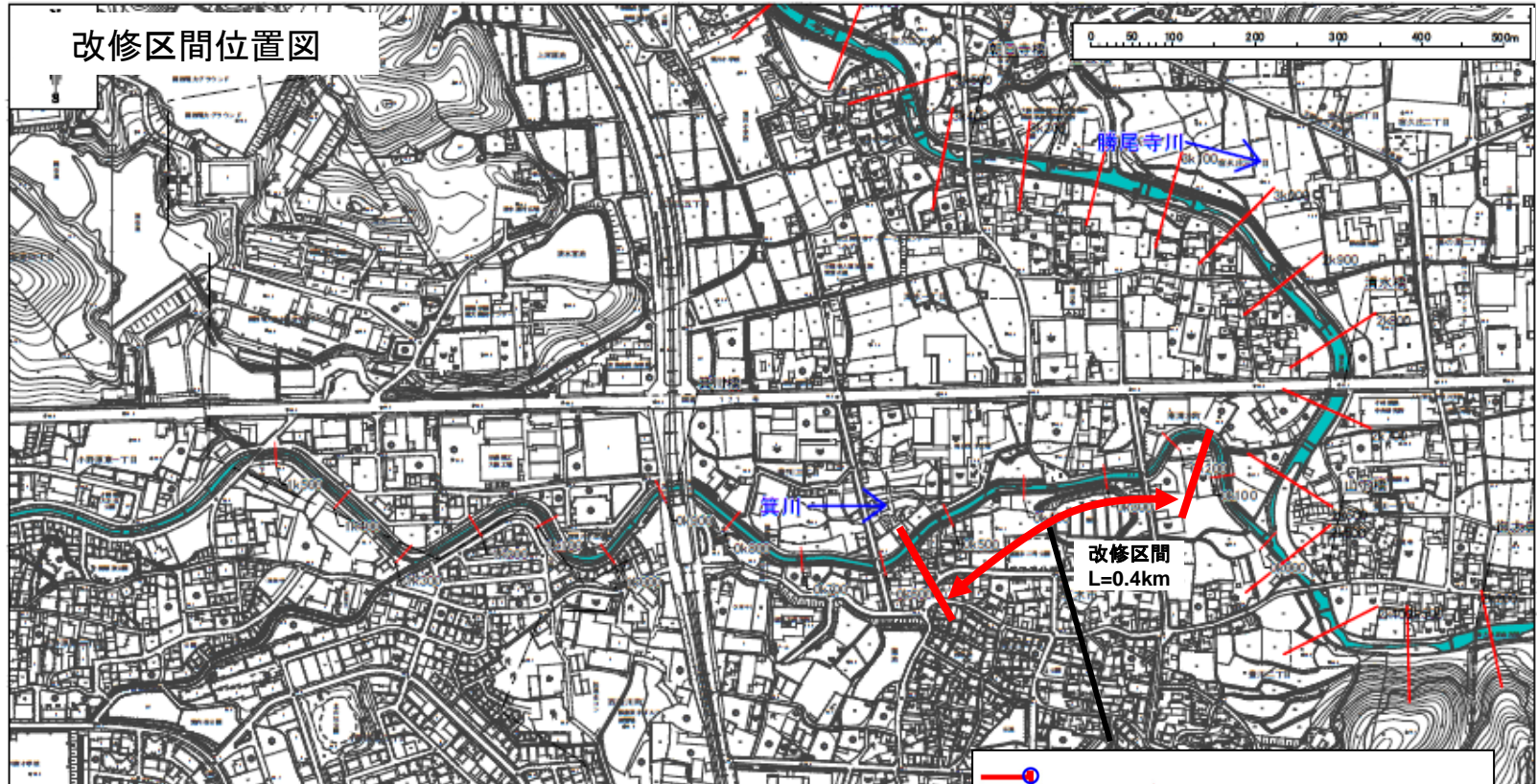
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	0.50ha 29人 534百万円	
	90ミリ程度 (1/200)	2.00ha 117人 360百万円	1.00ha 59人 961百万円	
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)	
	小	(被害の程度)		大



1. 当面の治水目標【箕川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策の想定

流下能力が不足する区間について、河道改修による時間雨量80ミリ程度対策を実施



改修断面図

1. 当面の治水目標【箕川：80ミリ程度対策後における氾濫解析】

■時間雨量80ミリ程度対策河道での氾濫解析結果（箕川）



1. 当面の治水目標【箕川】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

■65ミリ/h程度対応（現況河道）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	0.50ha 29人 534百万円	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	2.00ha 117人 360百万円	1.00ha 59人 961百万円	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

■80ミリ/h程度対応（河道改修）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	0.75ha 44人 65百万円	被害なし	被害なし
		小 ← (被害の程度) → 大		

（50ミリ程度対策後からの65ミリ程度対応への評価）

効果：0百万円
費用：0百万円
効果－費用：0百万円

（50ミリ程度対策後からの80ミリ程度対応への評価）

効果：160百万円
費用：2百万円
効果－費用：158百万円



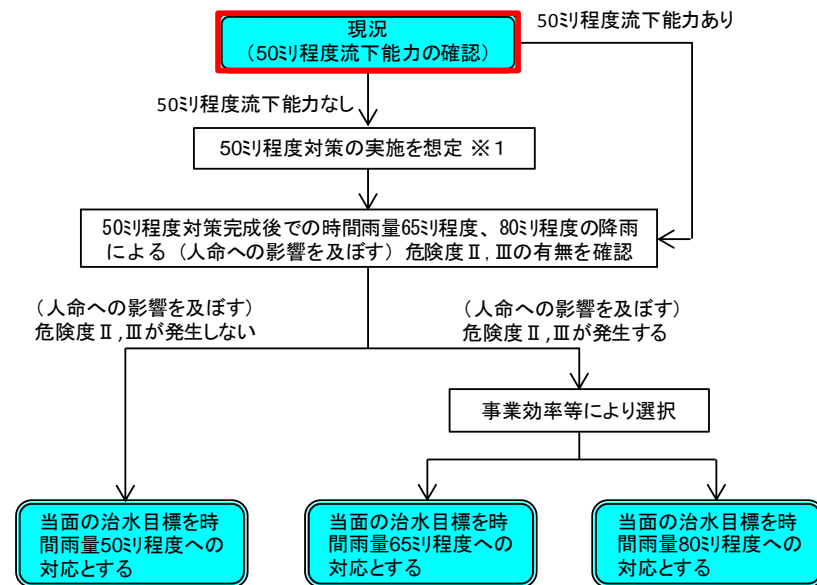
当面の治水目標を「時間雨量80mm程度」対応とする

1. 当面の治水目標【旧猪名川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下のとおり

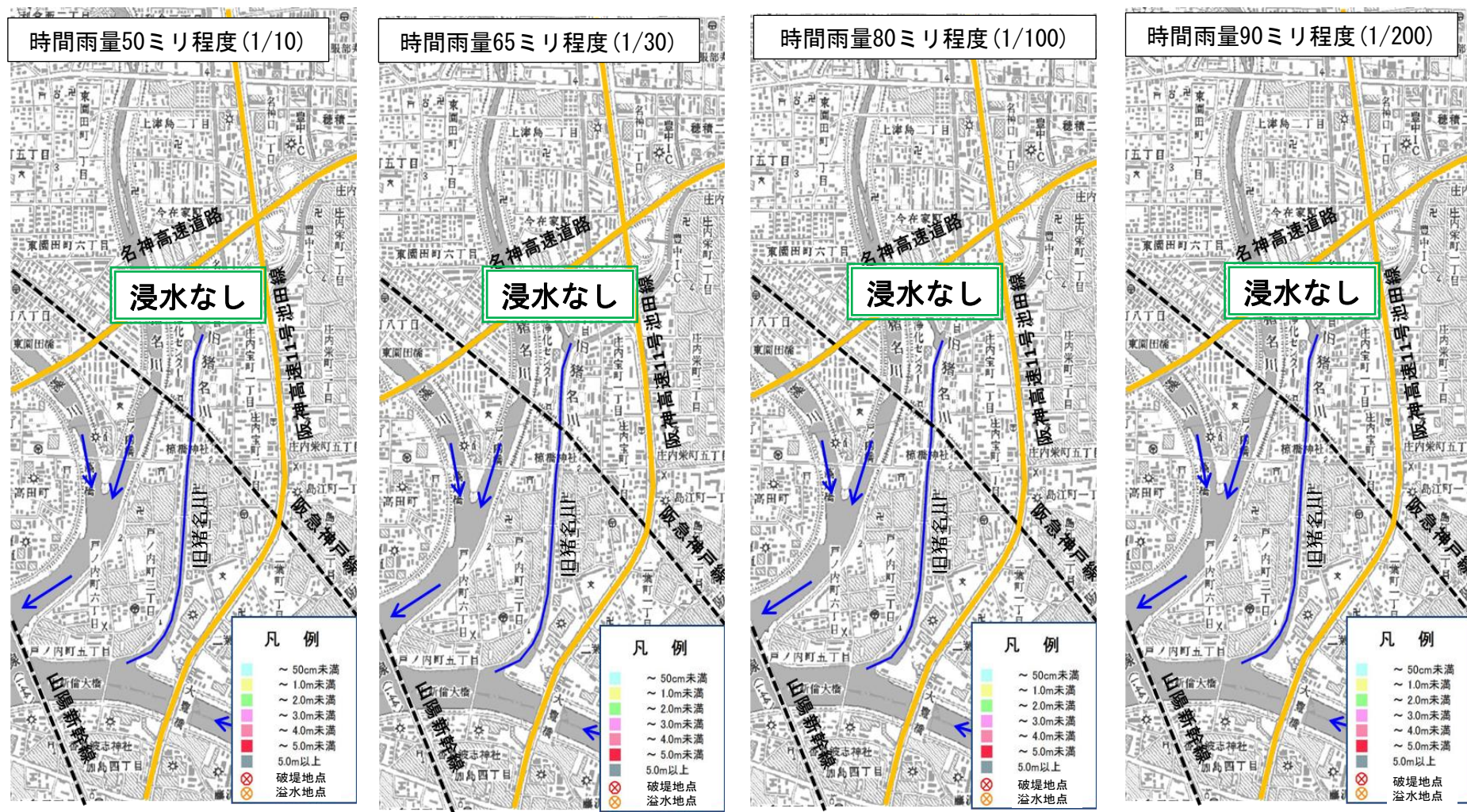
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【旧猪名川：現況河道における氾濫解析】

■ 現況河道での氾濫解析結果（旧猪名川）



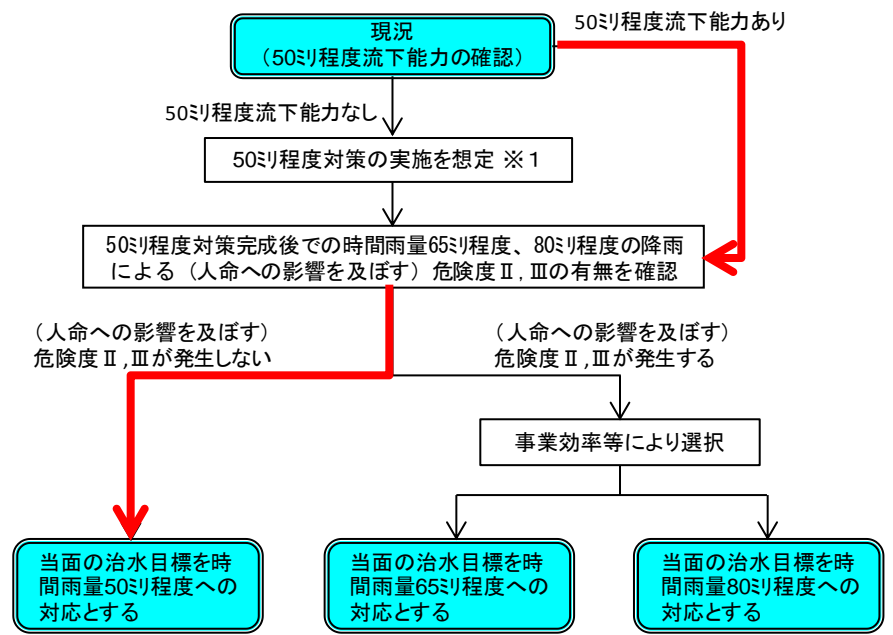
1. 当面の治水目標【旧猪名川】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50mm程度 (1/10) 被害なし	65mm程度 (1/30) 被害なし	80mm程度 (1/100) 被害なし
	90mm程度 (1/200) 被害なし	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 $2.5\text{m}^3/\text{s}^2$)
	小	大	
	← (被害の程度) →		

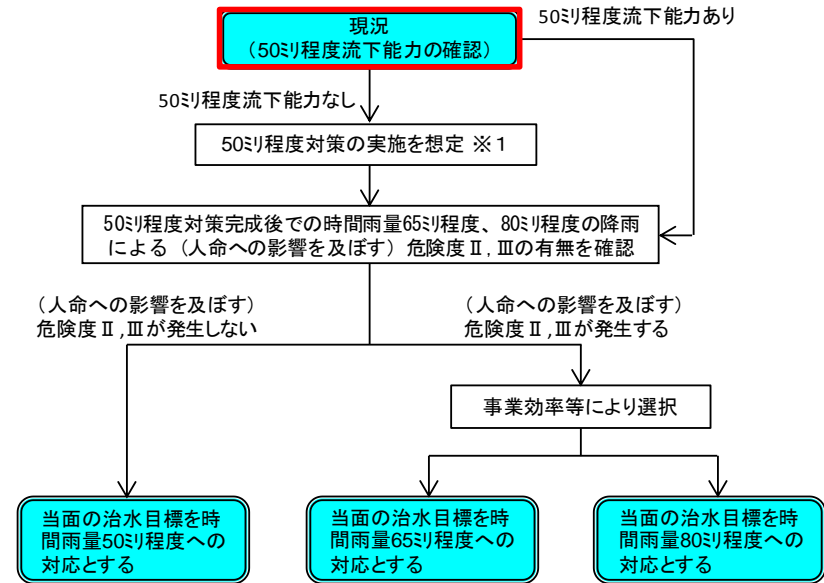


1. 当面の治水目標【境川・三条川・新大正川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【境川・三条川・新大正川：現況河道における氾濫解析】

■ 現況河道での氾濫解析結果（境川・三条川・新大正川）

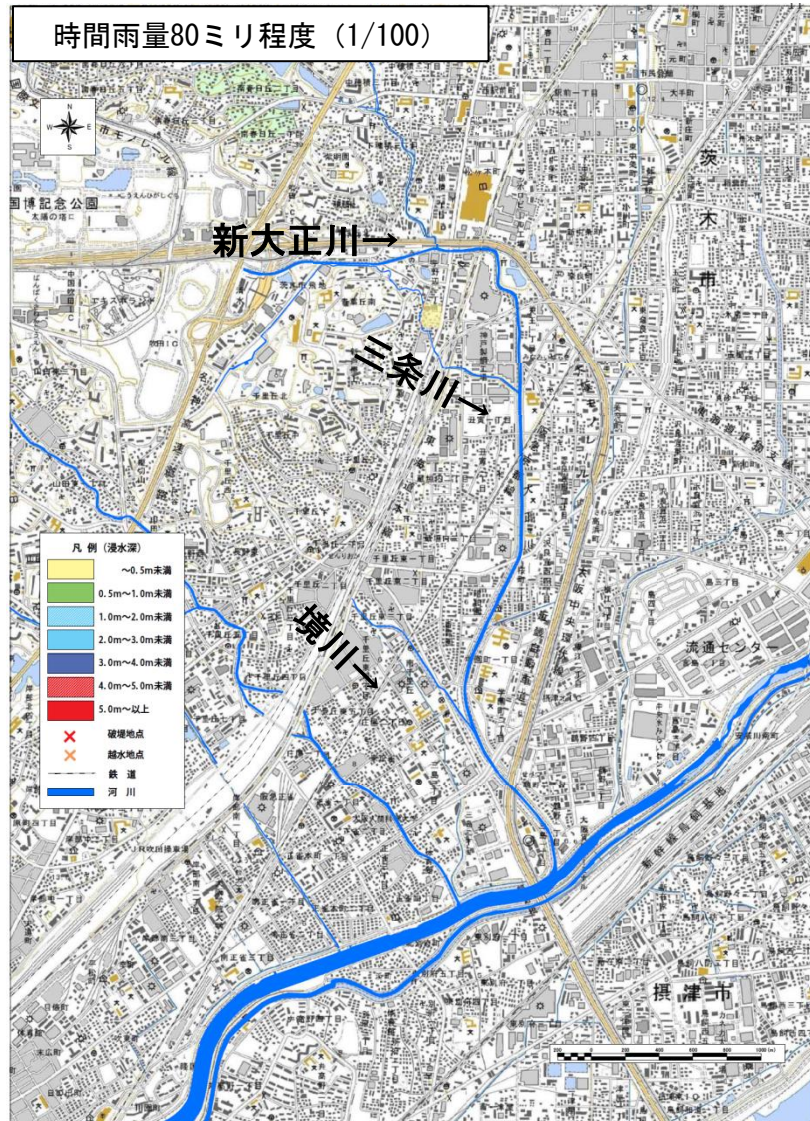


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

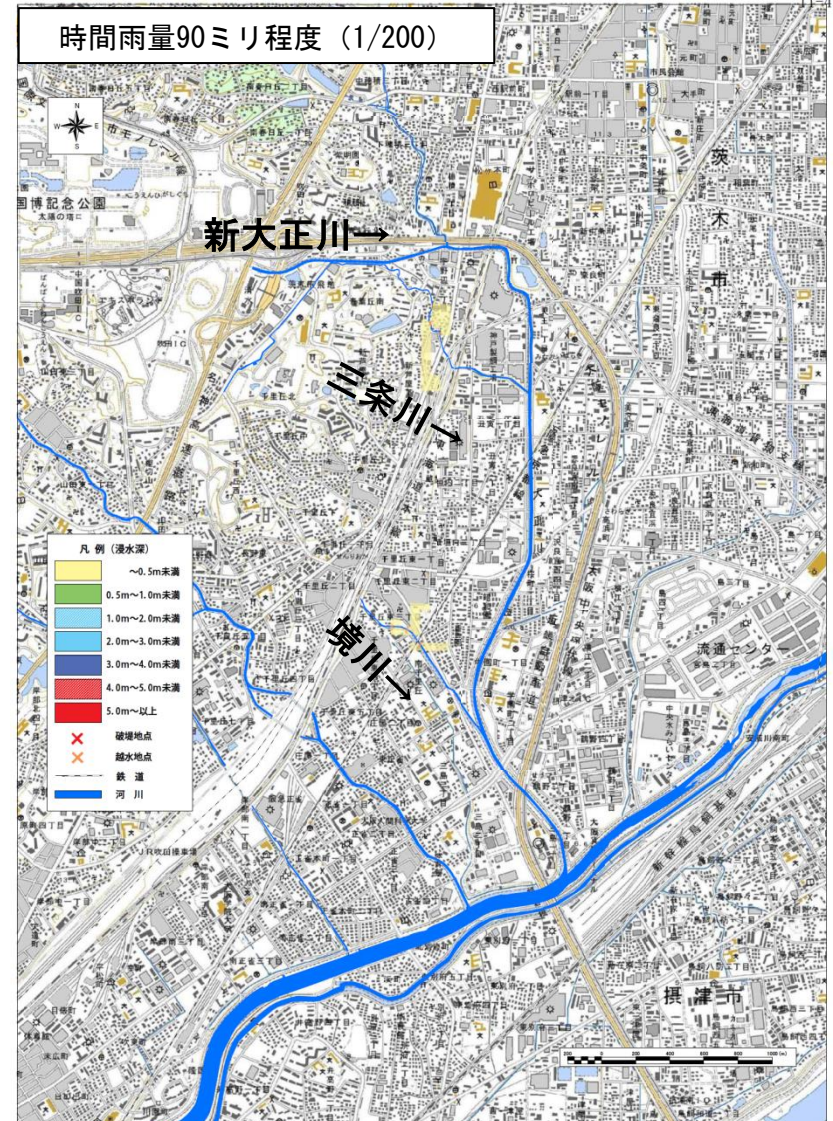


※被害最大となる破堤地点での破堤を想定（1洪水）

1. 当面の治水目標【境川・三条川・新大正川：現況河道における氾濫解析】



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定 (1洪水)

1. 当面の治水目標【境川・三条川・新大正川】

■ 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない

■ 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

■ 境川

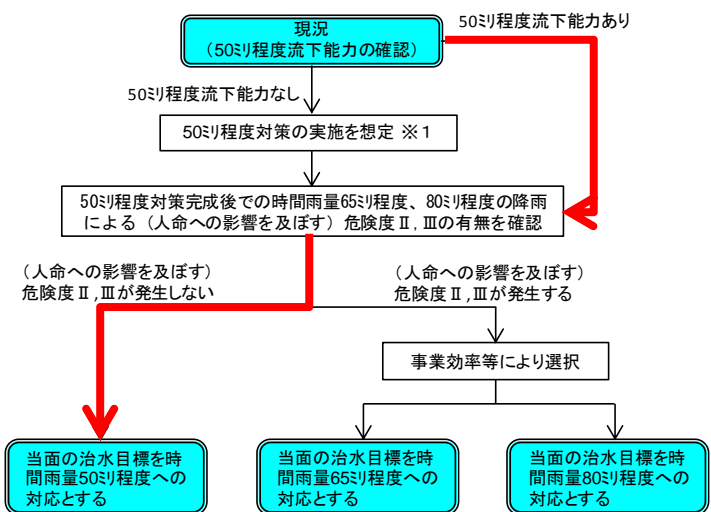
発生頻度	被害の程度		
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
小 90ミリ程度 (1/200)	3.00ha 383人 500百万円	被害なし	被害なし
床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)			

■ 三条川

発生頻度	被害の程度		
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	1.50ha 185人 252百万円	被害なし	被害なし
小 90ミリ程度 (1/200)	4.50ha 575人 700百万円	被害なし	被害なし
床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)			

■ 新大正川

発生頻度	被害の程度		
	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	被害なし
小 90ミリ程度 (1/200)	被害なし	被害なし	被害なし
床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m³/s²以上)			

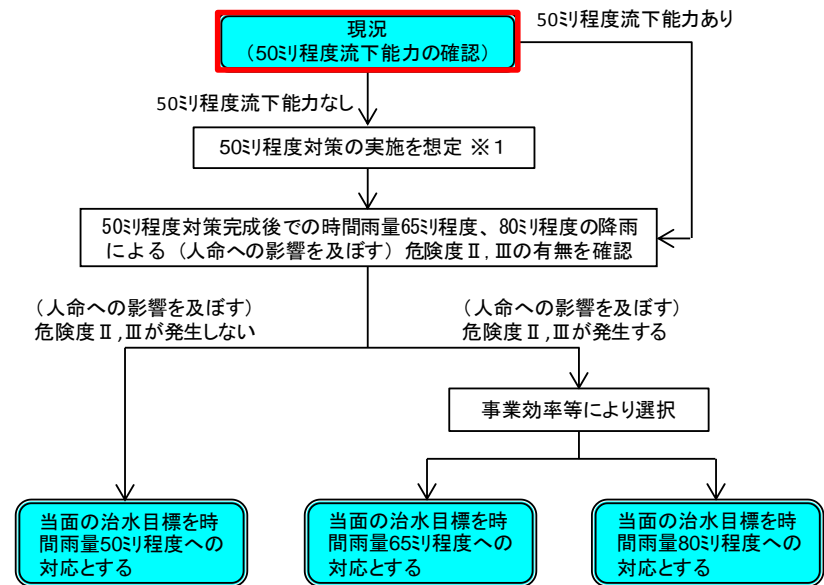


1. 当面の治水目標【川合裏川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

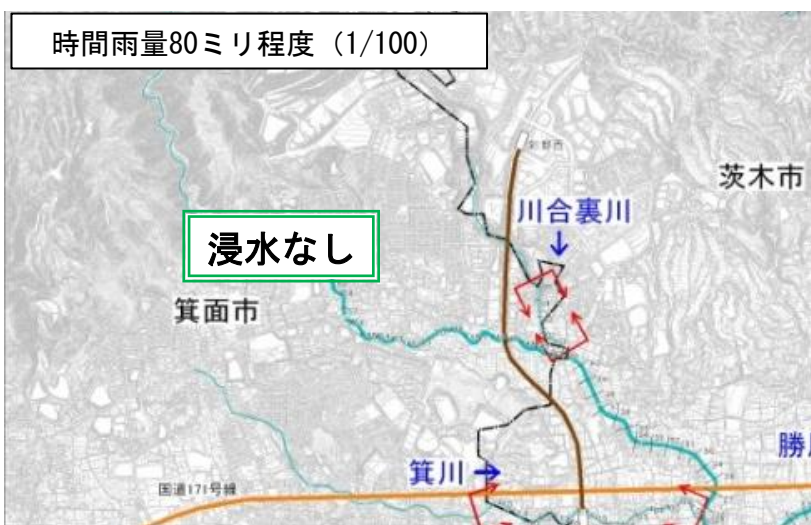
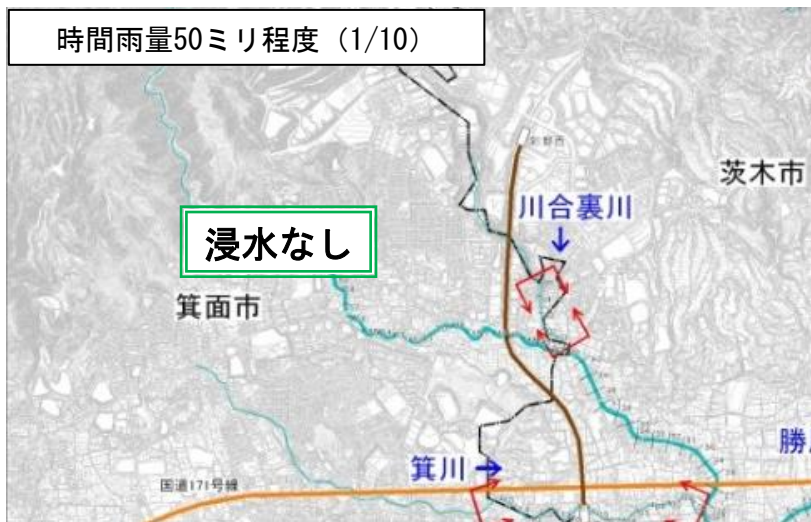
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【川合裏川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（川合裏川）



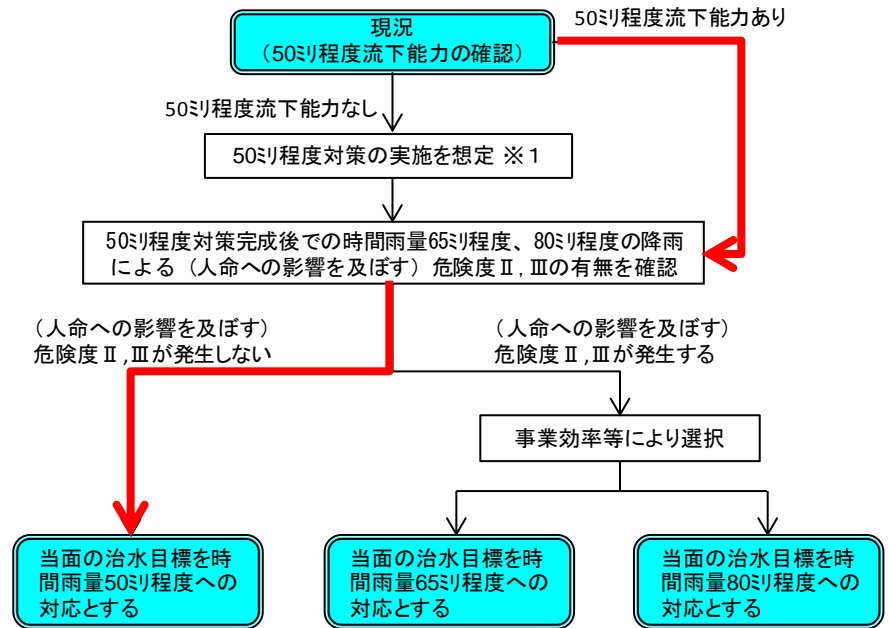
1. 当面の治水目標の設定【川合裏川】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度)	50ミリ程度 (1/10)	65ミリ程度 (1/30)	80ミリ程度 (1/100)
	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
小 ↓	90ミリ程度 (1/200)	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
	小	← (被害の程度) →	大

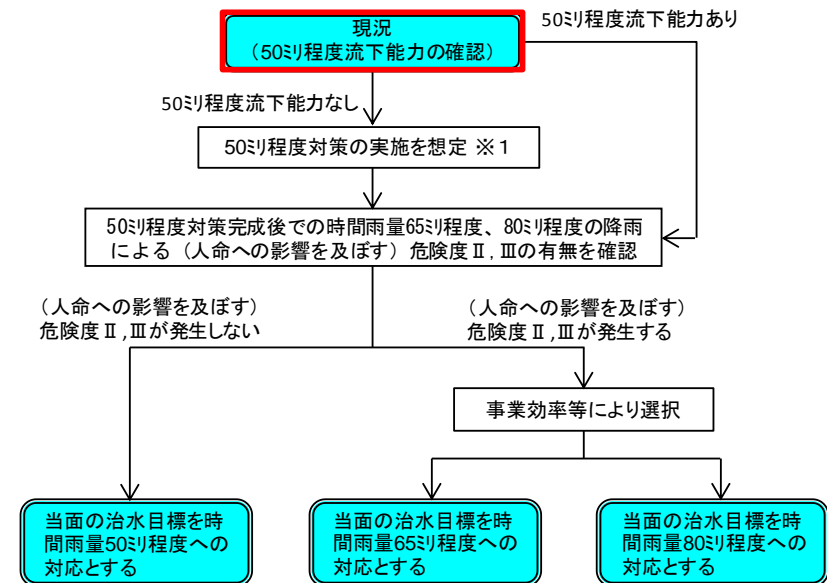


1. 当面の治水目標【郷之久保川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

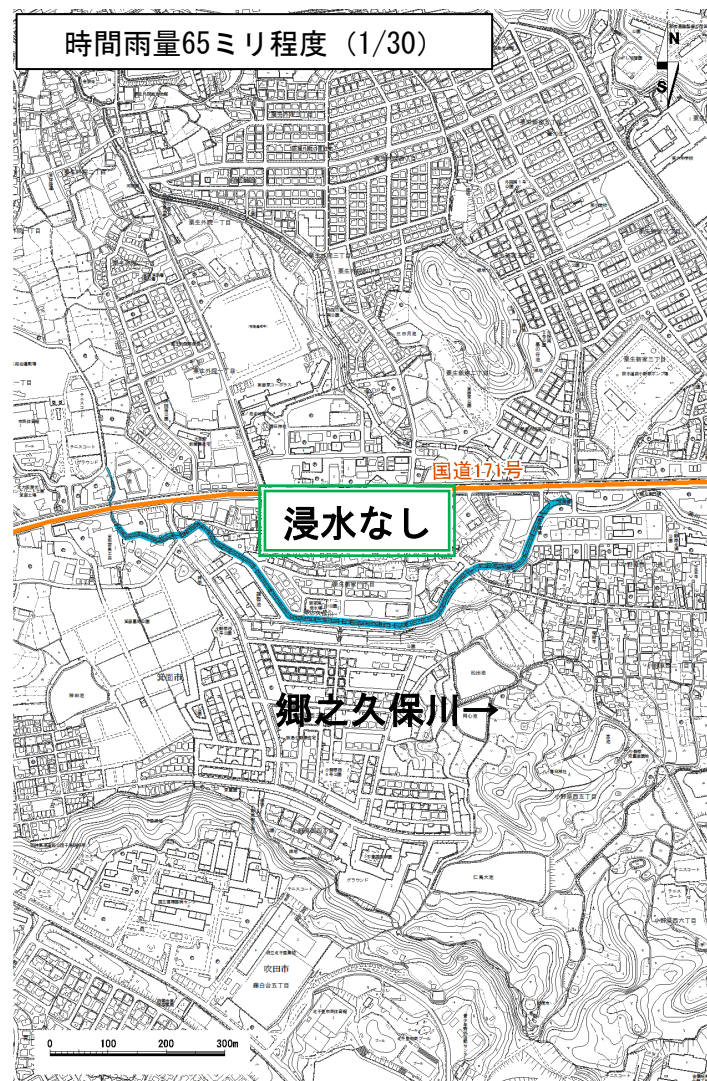
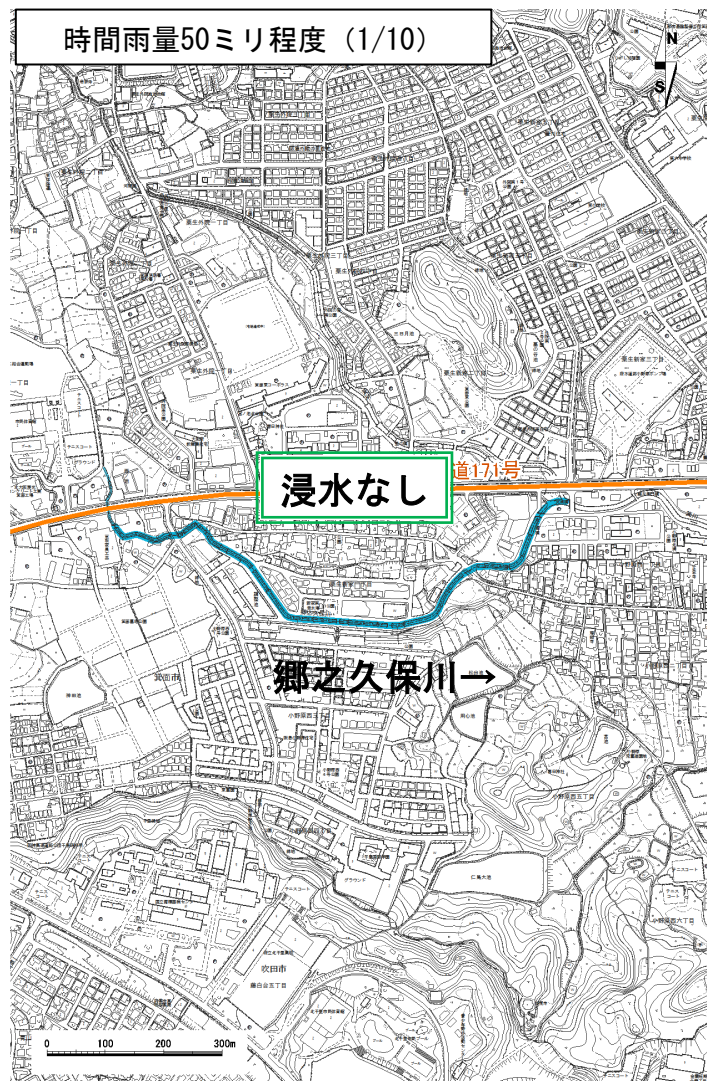
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【郷之久保川：現況河道における氾濫解析】

■ 現況河道での氾濫解析結果（郷之久保川）



1. 当面の治水目標【郷之久保川：現況河道における氾濫解析】



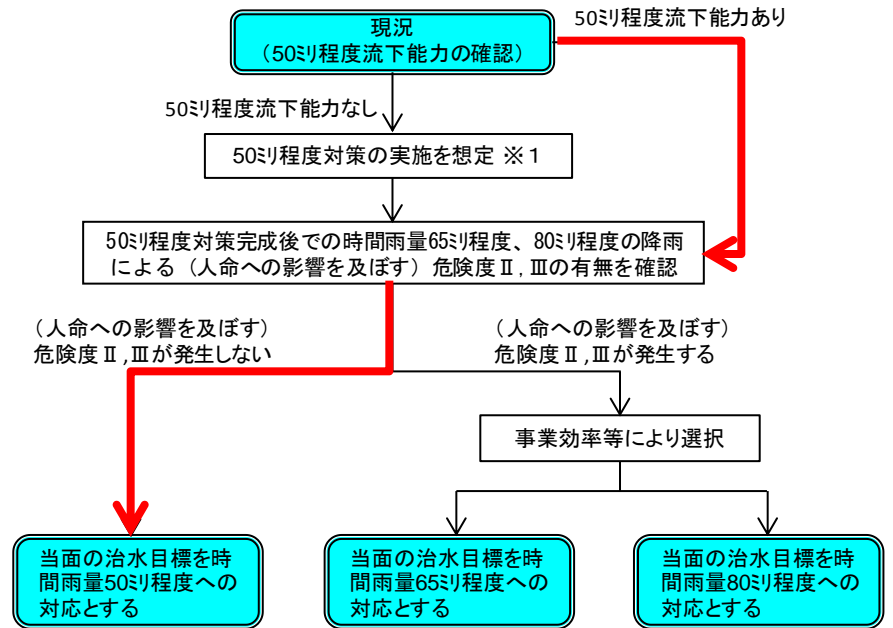
1. 当面の治水目標の設定【郷之久保川】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
大 ↑ (発生頻度)	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし	
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし	
	90ミリ程度 (1/200)	被害なし	被害なし	
小 ↓				
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)	
	小	(被害の頻度)		大

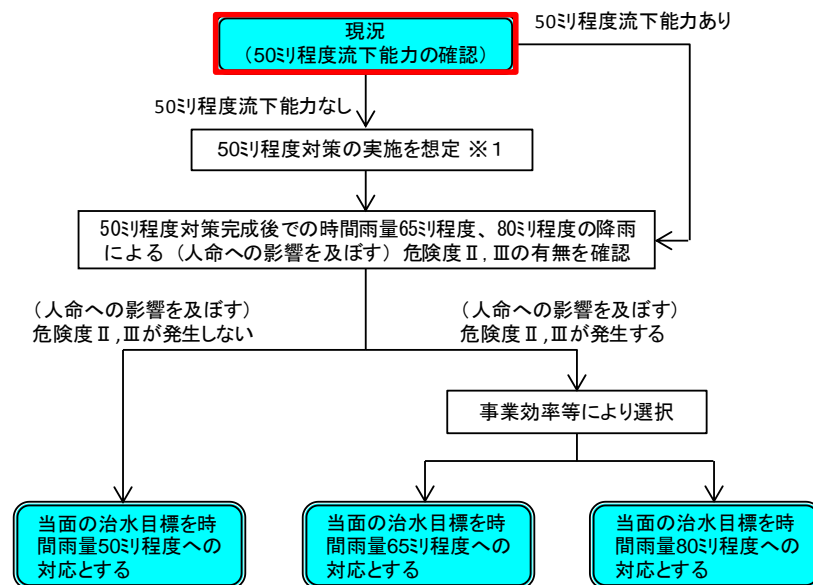


1. 当面の治水目標【裏川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

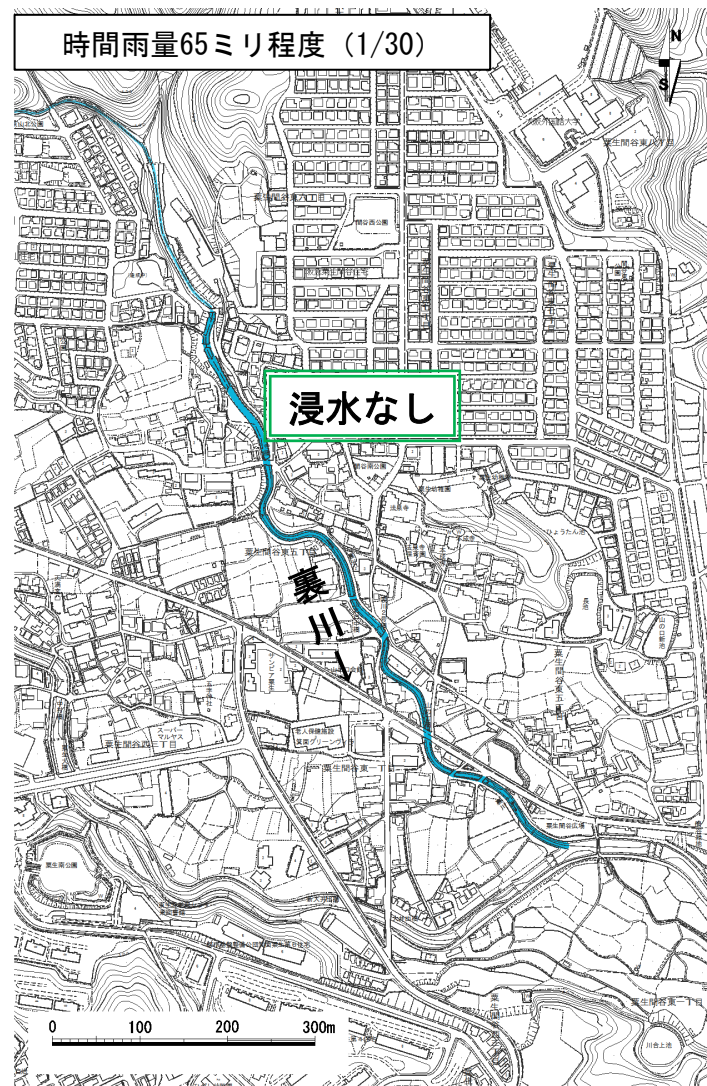
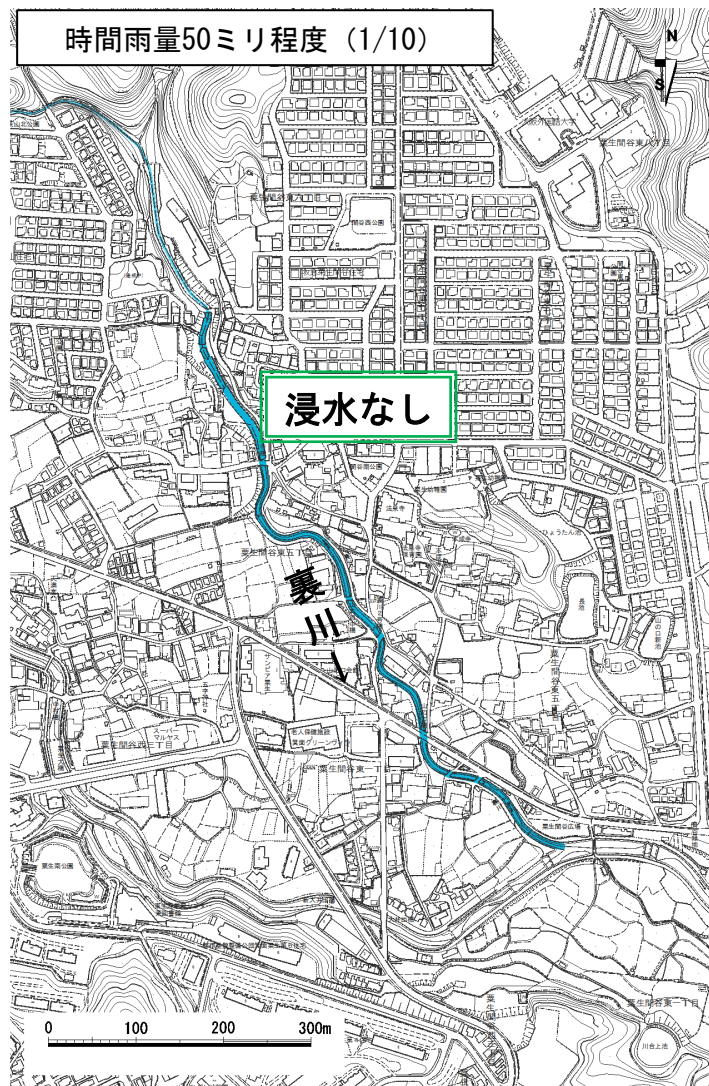
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



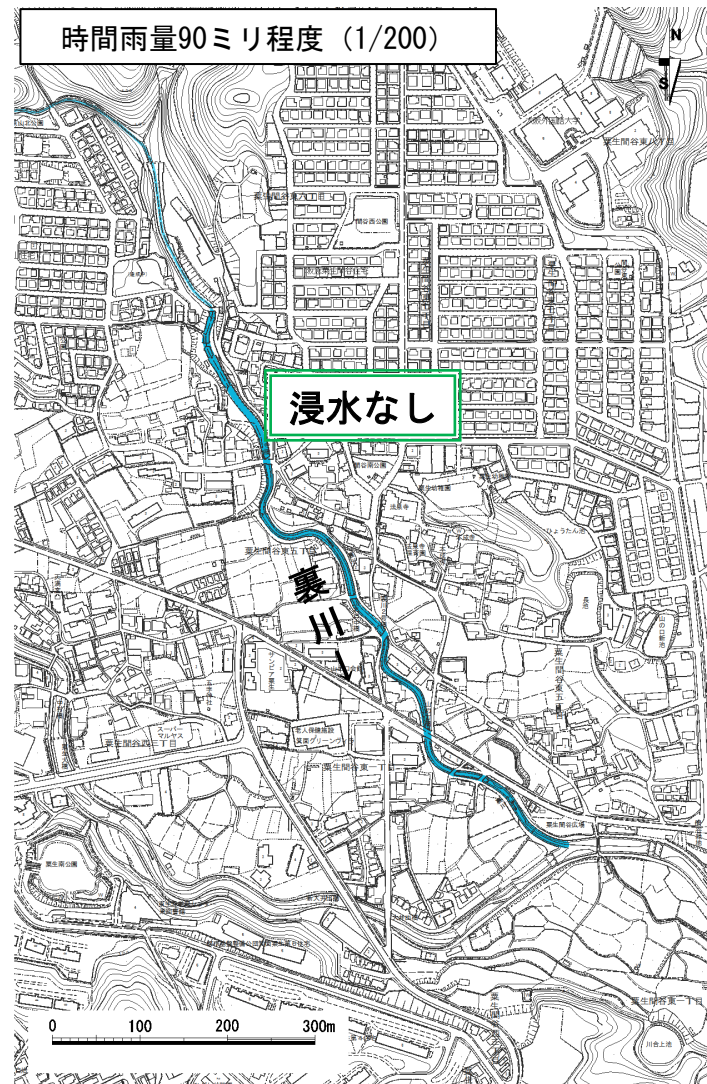
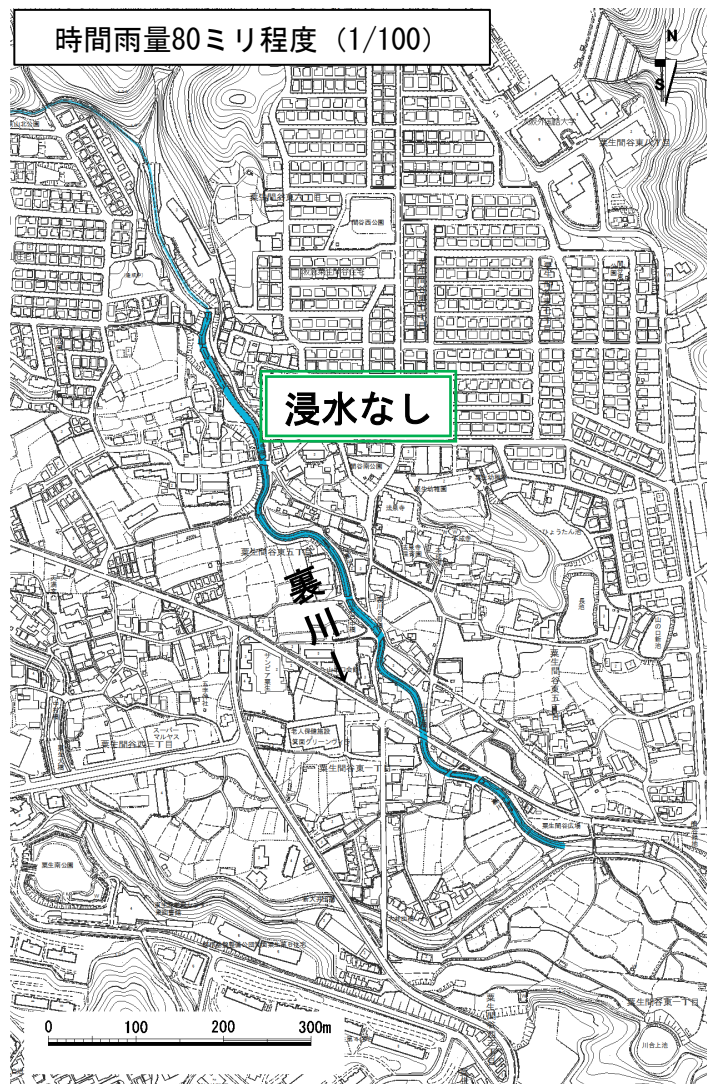
当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【裏川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（裏川）



1. 当面の治水目標【裏川：現況河道における氾濫解析】



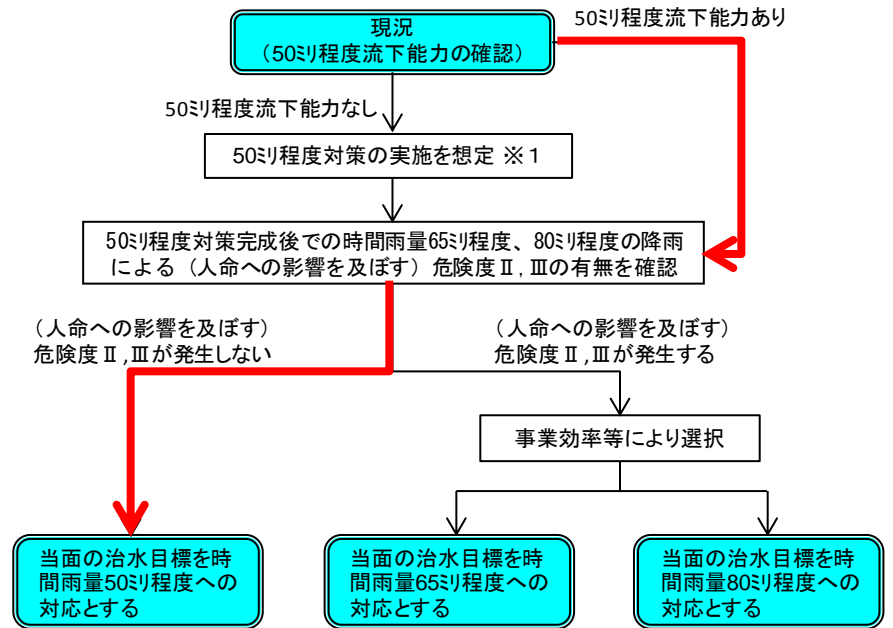
1. 当面の治水目標の設定【裏川】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ	
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	65ミリ程度 (1/30)	80ミリ程度 (1/100)	90ミリ程度 (1/200)
	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)	
	小	← (被害の程度) →		大

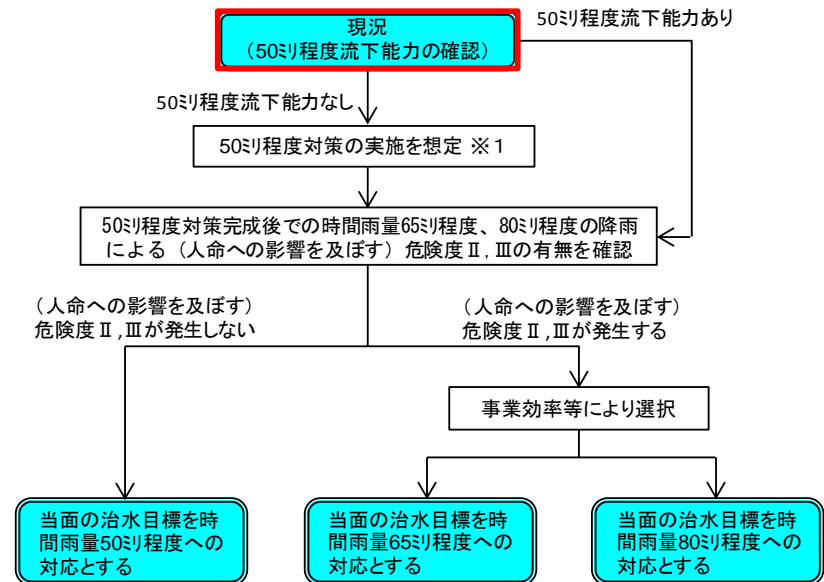


1. 当面の治水目標【土室川分水路：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

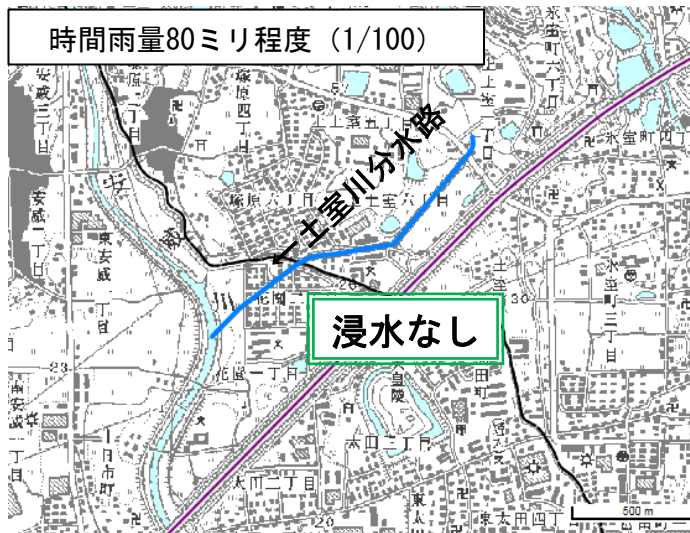
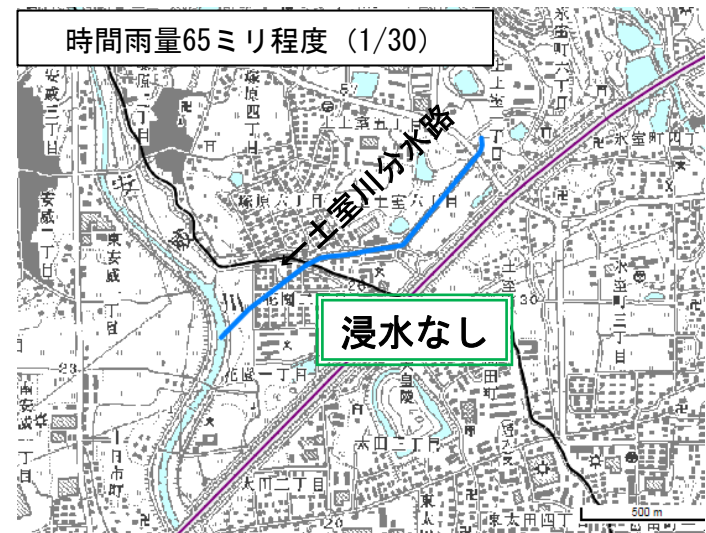
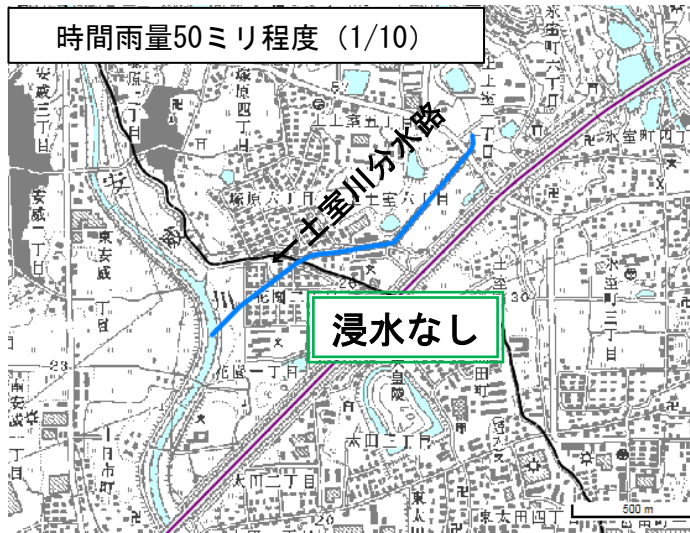
- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【土室川分水路：現況河道における氾濫解析】

■現況河道での氾濫解析結果（土室川分水路）



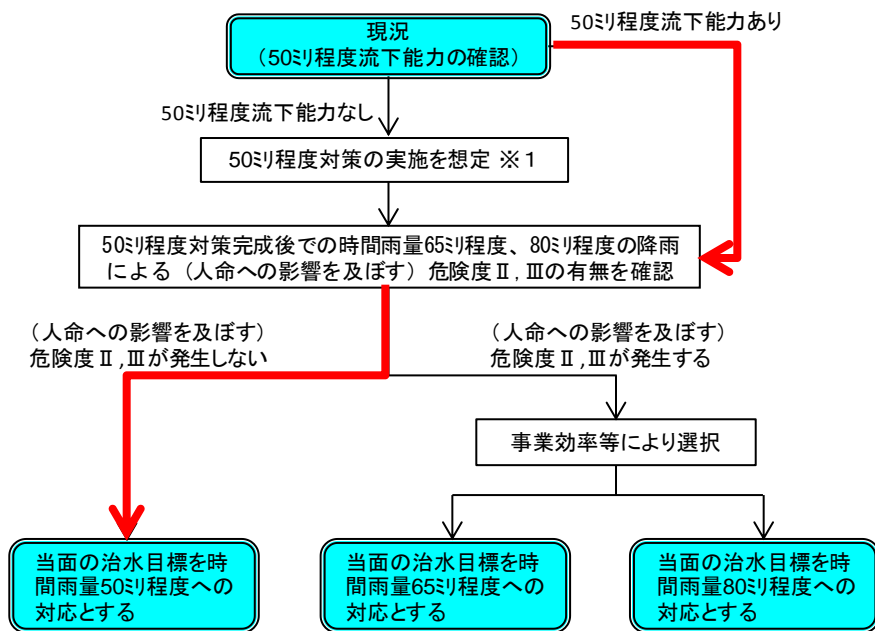
1. 当面の治水目標の設定【土室川分水路】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ程度 (1/10)	65ミリ程度 (1/30)	80ミリ程度 (1/100)
	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
	被害なし	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)		
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
	小	← (被害の程度) →	大

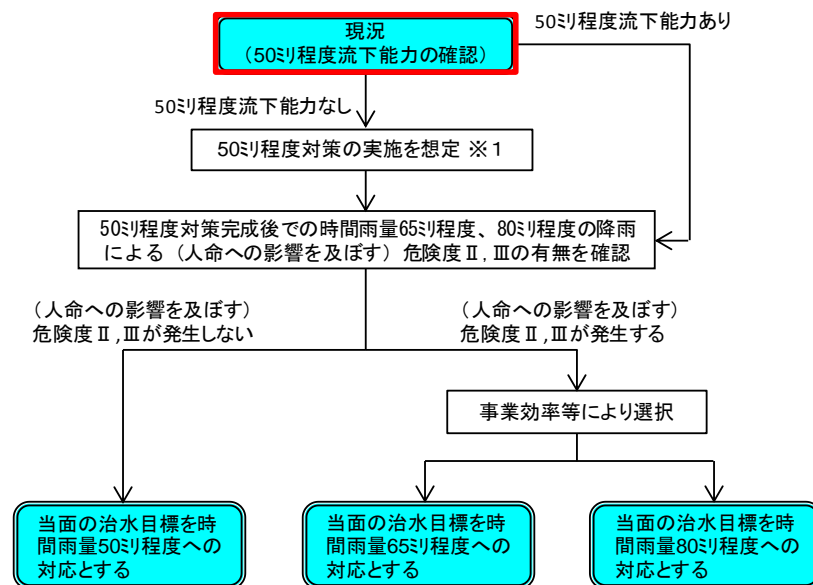


1. 当面の治水目標【下音羽川：現況河道における氾濫解析】

■具体的な検討は『当面の治水目標設定フロー』に従って実施。

○氾濫解析の前提条件は以下の通り

- 現況河道での氾濫解析を実施
- 対象降雨は、時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度、90ミリ程度の4ケース
- 降雨波形は、中央集中型、降雨継続時間は24時間
- 河道と氾濫原を一体的に解析し、氾濫水の河道への復流を考慮
- 氾濫原のメッシュサイズは50m



当面の治水目標の設定フロー

1. 当面の治水目標【下音羽川：現況河道における氾濫解析】

■ 現況河道での氾濫解析結果（下音羽川）



1. 当面の治水目標【下音羽川：現況河道における氾濫解析】



1. 当面の治水目標の設定【下音羽川】

- 現況河道において、時間雨量50ミリ程度の降雨では被害は発生しない
- 現況河道において、時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ・Ⅲの被害は発生しない。



現状で目標治水レベルを達成済

	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度)	50ミリ程度 (1/10)	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (1/100)	被害なし	被害なし
	90ミリ程度 (1/200)	被害なし	被害なし
小 ↓			
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m ³ /s ² 以上)
	小		大
	(被害の程度)		

